

2023年度
教職・資格（小金井）
講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

[発行日: 2023/5/1] 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉: 他学部公開科目

〈優〉: 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉: サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉: サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉: グローバル・オープン科目

〈実〉: 実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉: サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉: サーティフィケートプログラム_未来教室

教職関係科目	【H0501】	教職入門 [田中 一樹] 春学期授業/Spring	1
教職関係科目	【H0502】	教育原理 [川津 貴司] 春学期授業/Spring	2
教職関係科目	【H0503】	教育の制度・経営 [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	3
教職関係科目	【H0504】	教育心理学 [伊藤 隆一] 秋学期授業/Fall	4
教職関係科目	【H0505】	教育課程論 [田中 一樹] 秋学期授業/Fall	5
教職関係科目	【H0506】	数学科教育法 (1) [田神 仁] 春学期授業/Spring	6
教職関係科目	【H0507】	数学科教育法 (2) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	8
教職関係科目	【H0508】	数学科教育法 (3) [三橋 秀生、安田 和弘] 春学期授業/Spring	10
教職関係科目	【H0509】	数学科教育法 (4) [間下 克哉、寺杣 友秀] 秋学期授業/Fall	11
教職関係科目	【H0510】	理科教育法 (1) [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	12
教職関係科目	【H0511】	理科教育法 (2) [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	13
教職関係科目	【H0512】	理科教育法 (3) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	14
教職関係科目	【H0513】	理科教育法 (4) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	15
教職関係科目	【H0518】	道徳教育指導論 [賞雅 技子] 春学期授業/Spring	16
教職関係科目	【H0519】	特別活動論 [田神 仁] 春学期授業/Spring	18
教職関係科目	【H0521】	教育相談 [伊藤 ひろみ] 春学期授業/Spring	20
教職関係科目	【H0522】	生徒・進路指導論 [田神 仁] 秋学期授業/Fall	21
教職関係科目	【H0524】	教育実習 (高) [金沢 誠] 年間授業/Yearly	23
教職関係科目	【H0525】	教育実習 (中・高) [金沢 誠] 年間授業/Yearly	24
教職関係科目	【H0526】	教育実習 (高) [辻本 昭彦] 年間授業/Yearly	25
教職関係科目	【H0527】	教育実習 (中・高) [辻本 昭彦] 年間授業/Yearly	26
教職関係科目	【H0528】	教育実習 (高) [藤井 章博] 年間授業/Yearly	28
教職関係科目	【H0529】	教育実習 (中・高) [藤井 章博] 年間授業/Yearly	29
教職関係科目	【H0533】	幾何学A [間下 克哉] 春学期授業/Spring	30
教職関係科目	【H0534】	幾何学B [三橋 秀生] 春学期授業/Spring	31
教職関係科目	【H0535】	幾何学C [塚田 和美] 秋学期授業/Fall	32
教職関係科目	【H0560】	特別な教育的ニーズの理解と支援 [伊藤 友彦] 春学期授業/Spring	33
教職関係科目	【H0561】	総合的な学習の時間の指導法 [辻本 昭彦] 春学期授業/Spring	35
教職関係科目	【H0562】	教育方法論 (ICT 活用を含む) [藤牧 朗] 秋学期授業/Fall	36
教職関係科目	【H1052】	情報化社会と職業 [藤井 章博] 秋学期授業/Fall	38
教職関係科目	【H1710】	教育実習 (事前指導) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	39
教職関係科目	【H1711】	教育実習 (事前指導) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	41
教職関係科目	【H1860】	教職実践演習 (中・高) [辻本 昭彦] 秋学期授業/Fall	42
教職関係科目	【H1861】	教職実践演習 (中・高) [田神 仁] 秋学期授業/Fall	43
教職関係科目	【H3399】	地学実験 [辻 忠恭] 秋学期集中/Intensive(Fall)	45

SEE100LC

教職入門

田中 一樹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教職を志すにあたっての心構えについて、我が国における教育システムと法令等における位置付け、教員に求められる本来の資質と社会からの要求、問題点などについて校外実習も取り入れつつ、具体的実践を中心に検討する。

【到達目標】

教職に求められる社会的役割と資質向上への理解を深め、かつ魅力について認識し、教職への志を持続できるようにする。

また、これらを踏まえ、授業計画や行事計画を立案・作成できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

以下の事柄を中心に、講義および校外実習を行い、授業内発表や課題提出などを実施する。

- ・学校および教員に関する法令的背景
- ・教員の働き方と課外活動
- ・学校や生徒との関わりの中での安全教育と危険予測

【本年は4月10日を初回授業とします】

※一部校外学習があります。（日付は支援システムで通知します。）

※4月24日までに学習支援システムでの履修登録を済ませてください。

課題については授業内で発表し、他の学生からの質疑と応答および教員からのコメントをもって課題作成者にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回 4/10	ガイダンス	授業計画・概要・準備についての説明
第2回 4/17	学校と教職	内外の学校や教職についての関連法規 教育課程とその対応
第3回 4/24	授業技術および安全教育	発声や授業運営の実際と問題点 授業、休憩時間、放課後および課外活動中における安全確保と危険予測
第4回 5/8	特別活動【校外活動】	小金井公園にて、引率方法・行事実施方法の演習
第5回 5/15	生徒指導特別活動【実地踏査計画】	生徒や家庭との接触や体罰と指導校外教育を実施するための立案と実地踏査の方法について計画を立てる
第6回 5/22	情報教育	学校外での生活やネットリテラシーおよびICT教育
第7回 5/29	課外活動	中学校と高等学校の責任義務の相違、実態と指導法
第8-9回 分6月の毎日曜	校外実習	3グループに分かれ、日曜に計画したコースで移動教室実地踏査の実習
第8-10回 分6月の毎日曜	校外実習	3グループに分かれ、日曜に計画したコースで移動教室実地踏査の実習
第8-10回 分6月の毎日曜	校外実習	3グループに分かれ、日曜に計画したコースで移動教室実地踏査の実習
第11回 6/26	校務分掌	教員の仕事と年間計画
第12回 7/3	特別活動のまとめ	グループごとに、実地踏査の結果を発表する
第13回 7/10	進路指導	進路指導の意義と方法
第14回 7/17	まとめと最終課題	これまでの内容をまとめ、最終課題の作成に向けて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・グループディスカッションサイトを利用した討論・次回の授業内容の資料調査

【テキスト（教科書）】

「解説教育六法」三省堂の最新版

【参考書】

取得予定免許教科の
中学校学習指導要領解説
高等学校学習指導要領解説
および

生徒指導提要

【成績評価の方法と基準】

出席、レポート、発表と討論、ネット上で出す課題討論への積極的参加度を、総合的に評価する。

なお、重みづけは下記の通り。

最終課題… 50%

授業内提出課題… 25%

校外実習… 10%

その他、発表技術や平常点など… 15%

【学生の意見等からの気づき】

実践例や実態について高評価と継続希望が多かったので、より精選・洗練して導入していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で利用可能なPCを持参すること。

初回は登録作業を行うので必ず持ってくること。

【その他の重要事項】

Facebook を利用した課題討論を行う。

アカウント作成その他については初回オリエンテーションで行うので、初回から出席することが望ましい。

6月の日曜に野外実践を実施するので、都合が悪い日程や時期を控えてくること。

【Outline (in English)】

In this class, we focus on concrete practice in preparing for a teaching profession, including the position in the education system and laws and regulations in Japan, the actual qualities required of teachers, social demands, problems, and so on to consider.

SEE100LC

教育原理

川津 貴司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第1回で教育原理を学ぶことの意義を説明したうえで、序盤・中盤は順に歴史を追って、政治・経済・社会・家族と教育との関係を確認しながら、基礎的概念を修得し、代表的な教育思想について理解します。終盤は現代社会における教育的諸課題を、小グループでの議論を初めとした相互的・双方向的なやりとりをとおして、教育の基礎的概念や思想・理念を応用しつつ考察する力を磨きます。

【到達目標】

教育は日常的な営みであるため、日ごろ用いている卑近な言葉で何気なく考え語ってしまいます。しかし、そうした言葉——「発達」「個性」「教育」「学校」「教師」「家族」「子供」「知識」「わかる」など——が意味するところを根本的に考察し、教育の本質や理念に迫ろうとした人びとがいます。そのような思想家や理論家は何と言っているのでしょうか。

また私たちは、いまある教育を「あたりまえ」と考えがちですが、過去からあるいは未来から見れば、私たちが過去の教育を見て「どうして？」と疑問を抱くことがあるように、必ずしも「あたりまえ」ではないのです。なぜでしょうか。

この授業では、教育の基本的諸概念を正確に修得し、教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解します。この作業をとおして、現実の教育や学校の営みを、その変遷をも踏まえつつ、深く掘り下げて考察する力を磨きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前週の内容に関する「振り返り」と、毎回のテーマにそくした「講義」、学生どうしグループを作った「話し合い」の三部構成で進めていきます。フィードバックの方法としては、毎回の「話し合い」の記録をとってもらい、それらを編集しプリント化して配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義	教育の理念・歴史・思想を学ぶことの意義
第2回	古代の教育、近代以前の教育（1）教育と教育思想の発祥	なぜ教育は支配階級のためにしか存在しなかったのか？
第3回	中世の教育（1）：近代以前の教育（2）「学校」の諸形態	修道院・修道僧が「学校」「教師」のモデルになったのはなぜか？
第4回	中世の教育（2）：近代以前の教育（3）「こども」とは	中世に「こども」はいなかった？
第5回	近代の教育（1）：市民社会と教育思想	絶対王政に対抗する市民社会で生まれた教育思想はどのようなものか？
第6回	近代の教育（2）：産業革命と教育思想	産業革命による社会変化は教育観・方法論にどのような影響をもたらしたか？
第7回	現代の教育（1）：近代公教育制度の成立と展開、およびその教育思想	帝国主義はなぜ、どのように近代公教育制度の成立を促したか？
第8回	現代の教育（2）：現代教育・学校の諸問題と制度・教育改革	「児童の世紀」と「児童中心主義」が生まれてきた社会的背景はどのようなものか？
第9回	発達と学習	エリック・エリクソンを下敷きに
第10回	公教育・家庭・地域社会の関係	公教育と家庭・養育の関係性とその歴史の変遷
第11回	教科指導・生徒指導の諸理論	児童中心主義とカリキュラムの中心統合理論との融合
第12回	個性・能力・学力と教育思想	「その子の個性・能力」を見極め育てることの困難
第13回	高度知識社会における学校・教員・教科書の役割	高度知識社会における人間性の発達
第14回	総まとめ：教育の理念・歴史・思想についてのふりかえり	教育の基本的諸概念に関するミニ・クイズを解いて理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】学生は、授業のなかで紹介した本やデータや映像などに自分でも触れてください。

【テキスト（教科書）】

指定なし。毎回プリントを配布します。

【参考書】

・筒井美紀・遠藤野ゆり（2013）『教育を原理する——自己にたち返る学び』法政大学出版社・筒井美紀（2014）『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマシニスト社

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（本文、解説、資料）（最新版、文部科学省）

→ 文部科学省ホームページよりダウンロードできます。http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htm

【成績評価の方法と基準】

教育の本質や理念を歴史的・社会的・思想的変化と関連づけながら理解したか、という観点から評価を行います。

複数回の小レポート（50%）と期末試験（50%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生さんどうしの意見交換を大切にしています。

一人ひとりが知っていること・考えていることを「話しやすい」環境づくりを心がけています。

【その他の重要事項】

この授業の内容・進め方については、受講する学生と相談のうえ、最終的に決定します。初回授業には必ず出席してください。

また、学生どうしの「話し合い」を取り入れる授業ですので、協力をお願いします。

【Outline (in English)】

The History of education, in the relationship of politics, economy, society family. Some basic concepts of education, some educational thoughts.

Active learning; group discussion about today's educational issues.

Since education is a daily activity, we casually think and talk in the familiar words we use every day. However, there are thinkers and theorists who tried to clarify the essence of education through fundamental consideration of the meaning of such words—"development," "individuality," "education," "school," "teacher," "family," "children," "knowledge," "understanding," etc. What do they say?

Also, we tend to think of existing education as "natural", but it is not "natural:" when we may ask "why?" looking at education in the past time, we usually don't think it as "natural". What does this mean?

In this class, you will accurately acquire the basic concepts of education and understand the essence and ideals of education in relation to historical, social, and ideological changes. Through this work, you will develop your ability to delve deeply into actual education and school activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

SEE100LC

教育の制度・経営

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業内容の構成は大きく二分される。一つは、学校の組織・経営を枠付け、規制する公教育や行政の法制度やしきみである。もう一つが、学校の組織・経営を具体的な諸側面についてである。これには危機管理や安全対策、地域との連携も含まれる。これらの内容をアクティブラーニングを使って理解するとともに、学校現場において活用できる実践的な資質・能力を身に付けることができる。

【到達目標】

日本の学校教育に関する制度的及び経営的なトピックを学び、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営に関わる基礎的事項が理解できる。また、GIGA スクール構想や教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）など最先端の教育課題について考えることができる。さらに、学校組織・経営の基礎的知識及び、地域との連携、安全と危機管理など実践的な内容など習得し活用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とワークショップ形式（問題解決）を基本とする。授業中にジグソー法やグループディスカッション&プレゼンなどを取り入れる。また、毎回の提出課題と OPPA（一枚ポートフォリオ評価法）で授業のふりかえりを行い、授業内容の理解を促し、受講者の考えを整理し必要に応じて授業でフィードバックする。さらに、YouTube の作成、JamBoard の活用、ChatGPT の利用など授業の DX 化を推進する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（現代社会と学校改革）	授業のテーマと構成、進め方と評価、日本の学校改革の今（PISA 調査に基づく学力観の変容、GIGA スクール構想なども含む）
第 2 回	世界の教育改革	学校体系の国際比較、海外の学校制度改革、日本の学校制度改革（ドルトンプラン、イエナプランなど）
第 3 回	憲法・教育基本法	憲法の教育条項、教育基本法の新旧比較、教基法の 1～3 条（教育基本法の変容と時代背景）
第 4 回	教育行政のしくみ	文部科学省、教育委員会、地教法と学校（都道府県や区市町村の教育委員会の意義や役割等）
第 5 回	学習指導要領と教科書制度	学習指導要領改訂、教科書制度、カリキュラム・マネジメント（学習指導要領の改訂の歴史や教科書検定の在り方など）
第 6 回	教育財政制度と無償化	無償制、国庫負担金と補助金、就学援助と教育扶助（子供の貧困や教育格差と財政や教育費についても含む）
第 7 回	学校組織の法としくみ	学校管理規則、校長とミドルリーダー、校務分掌（管理職制度、主幹、主任制度、必置主任と校務分掌も含む）
第 8 回	学級経営	学級の誕生と性格、学級編制基準、少人数学級・指導（学級経営の在り方と事例研究）
第 9 回	学校と教員の評価	学校評価、教員評価、PDCA（学校評価の仕組みと地域、保護者、生徒の評価の活用、開かれた学校づくり協議会）
第 10 回	教員の成長と同僚性	「学び続ける教師」、同僚としての教師、授業研究（学びの共同体の構築）、校内研修の在り方
第 11 回	子どもの人権と学校	子どもの人権、学校の指導文化、校則（人権尊重推進の研究も含む）
第 12 回	学校の危機管理と安全対策	災害等の危機管理、安全対策、学校と保護者の関係づくり（リスクマネジメント）
第 13 回	「チームとしての学校」	チーム学校提案、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー（ケースワークの事例も含む）
第 14 回	地域や家庭に開かれた学校づくり	学校と地域の連携、コミュニティスクール、シチズンシップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で興味を持ったテーマやキーワードを、インターネットで検索したり、関連書籍・資料を読んで深めてほしい。なお、教職課程センターには、教育及び学校関係の情報が所蔵されているので、機会を見つけて訪問してほしい。

【テキスト（教科書）】

教員が必要に応じて指定する。

【参考書】

本図愛実・末富芳編著『新・教育の制度と経営【新訂版】』学事出版
文部科学省「学習指導要領」（最新版）、同ホームページ上の資料（法令、審議会答申等）

【成績評価の方法と基準】

教育の行政と制度についての基礎知識の理解だけでなく、自らの考えを知識やデータを根拠に議論ができ、又それらを裏付けて論述できるかを評価する。授業内のプレゼンや OPPA（一枚ポートフォリオ評価）等（40%程度）、提出課題レポート（60%程度）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「話し合いが多くて楽しい授業だった。課題が振り返りだったのも、授業内容の定着と伝わるような文章の練習になっただけでなく深く考える時間をとれたことが良かった。先生がこちらを絶対に否定せずほめてくれるので意欲につながった。授業でも学生がその姿勢をとることが、体系的な話し合いやディベートの学習につながったと思う。」既存の枠組みにとられない授業スタイルを模索し、学生が主体的に学習に取り組める点が良かったと思う。毎年、ワークショップ型の授業が好評である。授業改善として「教採に関する内容」とリンクを継続したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業パソコン必須（スマートフォン不可）

【その他の重要事項】

・授業の性質上、教職志望又教職に関心の高い人の履修を前提とする
・講義形式とワークショップ形式を併用して授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

【Outline (in English)】

The structure of the lesson content is roughly divided into two. One is the legal system and mechanism of public education and administration and finance that frame and regulate the organization and management of schools. The other is about specific aspects of school organization and management. This includes crisis management, safety measures, and collaboration with the community. You will be able to understand these contents using active learning and acquire practical qualities and abilities that can be utilized in school settings.

SEE100LC

教育心理学

伊藤 隆一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程、外的及び内的要因の相互作用
・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達

・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
・主体的な学習活動を支える指導の基礎

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70%）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート1回の成績（15%）を加味して、決定します。

○ 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jpです。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

【到達目標】

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程並びに特徴を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

The goal of this course is to understand the motivation and cognitive process in learning for children and to study how to integrate this knowledge into teaching practices.

It is also our aim to understand how teacher-student relationships and each child's disposition and developmental rate can affect their learning process and their ability to adapt to their learning environments.

We will also discuss educational psychology for learners with developmental disabilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

中学校、高等学校の教員として必要な教育心理学的知識について講義する。その内容は、概略、以下のようなものである。①知的能力と性格 ②心身の発達及び学習の過程 ③子どもへの支援の仕方 ④集団と人間関係。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	教育心理学の概要と授業ガイダンス
第2回	知的能力	知能の定義と構造
第3回	知的能力の測定	知能の測定、知能と学力との関係
第4回	性格とリーダーシップ	性格の定義・諸理論とリーダーシップ理論、リーダーの働き
第5回	行動	さまざまな行動の種類とその学習方法
第6回	効果的な学習方法	学習・記憶理論にもとづくさまざまな効果的な学習方法
第7回	子どもの心身の発達（1）	ピアジェ、エリクソンらの理論にもとづく子どもの心身の発達と、子どもへの支援の仕方。児童期まで
第8回	子どもの心身の発達（2）	ピアジェ、エリクソンらの理論にもとづく子どもの心身の発達と、子どもへの支援の仕方。青年期前期から
第9回	人間関係	家族、学校、地域における人間関係（縦関係や横関係）
第10回	集団	集団を構成する人間関係の構造とその影響力
第11回	状況の力	集団が個人に及ぼすさまざまな状況の力の働き
第12回	教授法	効果的な学習方法や教授法
第13回	教育評価	教育評価の方法とその影響
第14回	心身の障がいと特別支援教育	発達障がいを含む心身の障がいと特別支援教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

「伊藤隆一・千田茂博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年」を使用する。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート1回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業の際には、ノートパソコンと教科書を持参すること。

【Outline (in English)】

This course (Educational Psychology) introduces developmental psychology to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, functions of groups, learning theory and educational evaluation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

SEE200LC

教育課程論

田中 一樹

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国における教育システムと諸外国との比較および社会からの要求、問題点などから見た教育課程および発達状況に応じた教育課程を考察する。また、発達障害児に対する理解と対応について、様々な手法やマネジメントを理解する。

【到達目標】

教育課程とは何か、教育課程を構築するにはどうすればいいのかについて、国内のみならず諸外国の事情を含め、歴史的変遷も含めて主に中学校・高等学校の理科・数学を中心に学ぶ。
また、改正発達障害者支援法に基づいた発達の程度に合わせた教育課程について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の特性から、講義および課題演習・グループ発表を合わせて行う。課題については授業内で発表し、他の学生からの質疑と応答および教員からのコメントをもって課題作成者にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	パソコン必須！ 授業に必要な事柄などの準備および作業
9/25		
第 2 回	教育課程とは	定義的裏付け 意義と役割
10/2		
第 3 回	学校教育	学校の成り立ち 比較教育（欧州・米国を中心に）
10/9		
第 4 回	日本の学校教育のしくみ	変遷と法令との整合
10/16		
第 5 回	学校における教育課程	立案の実態と細案
10/23		
第 6 回	理数教育を取り巻く現状	新学習指導要領と理数系教育に対する
10/30		社会の要請、ICT教育
第 7 回	中間テスト	筆記試験
11/6		
第 8 回	評価と測定 (1)	評価とは何か 測定とは何か
11/13		評価の方法論
第 9 回	評価と測定 (2)	評価とは何か 測定とは何か
11/20		評価の方法論 についての現状
第 10 回	発達障害児とは	発達障害の種類と状況
11/27		
第 11 回	生徒指導と教育相談 (1)	ASSESS の利用と解釈
12/4		SEL-S PBS
第 12 回	生徒指導と教育相談 (2)	ASSESS の利用と解釈
12/11		SEL-S PBS
第 13 回	新しい教育観	社会の要請としての教育はどんなものか
12/18		
第 14 回	期末テスト	筆記試験
1/15		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

目的とする教科の新しい小学校、中学校および高等学校の学習指導要領を文部科学省のサイトからDLし印刷しておくこと。
〔情報〕の場合は中学校「技術・家庭」を含む。）

【テキスト（教科書）】

教職入門で使用した「教育六法」（新版でなくてかまわない。一年次使用のもの。）

【参考書】

教育入門と同じ

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（評価の 50%）

中間評テスト（評価の 30%）

ディベートの場としての参加度および出席を考慮する。（評価の 20%）

【学生の意見等からの気づき】

自分が受けてきた授業がどのような背景でなされていたのか、また教職に就くにあたりどのような資質や心構えおよび研修が必要なのかがよく理解できたという声が多かった。

【学生が準備すべき機器他】

授業で利用可能なPCを持参すること。

【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。

したがって、授業中の飲食や過度の私語、居眠りは原則として

単位を認定しない。

SNS を利用するので初回は可能なPCまたは端末を必ず持参すること。

【Outline (in English)】

Education curriculum in Japan, comparing educational systems with those of other countries, as well as social demands and problems.

Students consider the curriculum according to the development situation and the curriculum from the viewpoint of comparison between the educational system in Japan and other countries, demands from society, and problems.

In addition, students understand various methods and management for understanding and dealing with children with developmental disabilities.

SEE200LC

数学科教育法（1）

田神 仁

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生は、学習指導案を作成・検討し、模擬授業を通して学習指導要領の趣旨を理解する。○講義や演習を通して中学校及び高等学校数学教師としての在り方を考えるとともに専門性の向上を図る。○ICT機器活用やグループ学習など数学教育の先進的な指導法を学ぶ。

【到達目標】

○学習指導要領に示された数学における目標及び内容等を理解するとともに、指導と評価について実践的に学び、数学教師としての専門教養の涵養を図る。○ICT機器の活用の仕方について理解する。
○ Understand the goals and contents of mathematics shown in the Course of Study, learn practically about teaching and evaluation, and cultivate specialized education as a mathematics teacher. ○ Understand how to use ICT equipment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて講義を行う。○対面授業（ハイフレックス授業）を基本とするが、必要に応じて zoom 授業とすることがある。○今後のコロナウィルスの状況によっては全て zoom となることもある。○ zoom 授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 等の通信環境が必要。○ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoom は最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2023.1.28 現在 Ver.5.13.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロール・プレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom 参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は、学習支援システムで行う。○現職の数学教員 2 名を講師に招き、数学授業における指導の工夫や ICT 機器活用の実際等について学ぶ。○模擬授業では動画を記録し、授業の振り返りに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	○授業ガイダンス○グループ学習実施上の留意点	○授業計画の理解○ジグソー法を通してグループ学習実施上の留意点について学ぶ。
2	○中高数学科における教材研究○学習指導要領について	○グループ協議を通して、主体的・対話的で深い学びを踏まえた中学校・高等学校数学科の教材を研究する。○学習指導要領に関する演習・講義を通して知見を得る。
3	○ AI と数学教育について（AI アプリの授業への活用）PC 持参	○ AI の数学教育への活用の可否及び活用上の留意点についてグループ協議を通して研究する。（PC 持参）
4	○数学教師の専門性に関する研究	○動画や教採問題を用いたグループ協議を通して、数学教師の専門性について研究を深める。
5	○ Web 動画授業と教室の授業	○ Web 動画を用いたディベートを通して教室の授業の在り方を研究する。

- | | | |
|----|--------------------------------|--|
| 6 | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（1） | ○模擬授業及び研究協議を通して、板書や発問など、授業技術等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。 |
| 7 | ○数学教育の現状（観点別評価） | ○学校でありがちな事例を用いて、ロールプレイングを通して数学教育の現状について理解を深める。 |
| 8 | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（2） | ○模擬授業及び研究協議を通して、ICT 機器活用について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。 |
| 9 | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（3） | ○模擬授業及び研究協議を通して、グループ学習・ペア学習について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。 |
| 10 | ○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（4） | ○模擬授業及び研究協議を通して、グループ学習・ペア学習について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。 |
| 11 | ○高等学校における数学教育の実際（関数ソフト使用）PC 持参 | ○現職数学教師による関数ソフトを用いた講義、演習を通して、数学教育における ICT 機器活用の現状と留意点を知る。（PC 持参） |
| 12 | ○習熟度別授業実施上の留意点に関する研究 | ○ジグソー法を通して、習熟度別授業実施上の留意点について研究する。 |
| 13 | ○中学校における数学教育の実際 | ○現職数学教師による講義、演習を通して、数学教育における現状と課題を知る。 |
| 14 | 試験形式とまとめ | ○関係資料持ち込み可の試験形式授業を通して、半年間の授業全体を振り返る。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
○返却された提出物を基にして授業の復習を行うこと。指示に従って、全員が単元指導計画や学習指導案を作成する。○代表者による模擬授業を行うので、事前に学習指導案の構想を練っておく。○事前に配布された教員採用選考問題（専門教養）を解き、生徒に説明する方法を検討しておく。

【テキスト（教科書）】

○中学校学習指導要領○高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）、2018.3 発行○「高等学校学習指導要領解説（数学編、理数編）」文部科学省、2017.3 発行○「中学校学習指導要領解説（数学編）」文部科学省及び担当教員自作の印刷物等を配布。

【参考書】

（授業中に配布する資料）○旧東京都立教育研究所研究紀要「数学的な見方や考え方に関する研究」（平 7）○東京都教職員研修センター 教科基礎調査研究数学会研究報告書「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成するための系統的な指導の在り方」（平 26）

【成績評価の方法と基準】

○評価基準は次の通り。課題の提出状況・記述状況（50％）、授業への取り組み状況「平常点」（30％）、最終回の期末試験形式授業の点数（20％）により評価する。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。

【学生の意見等からの気づき】

○前年度の授業改善アンケート結果によれば、アクティブ・ラーニングを重視した演習が大変好評であったので、今年度も毎回アクティブ・ラーニングを行う。○現職教師による学校の指導事例報告やICT機器の実習も好評であった。そのため、本授業においても同様の工夫を行う。○教員志望者が多いので、教員採用試験に役立つ内容も扱う。併せて、教員志望者でなくても、将来保護者として必要な知見についても扱う。

【学生が準備すべき機器他】

○対面授業の際は授業中に手書きで課題に記入して授業後に提出するので、筆記用具の持参だけでよい。○PC持参の授業では、授業日までにパワーポイント、無料関数ソフト GRAPES をインストールしておくこと。zoom による授業では、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 環境を用意してほしい。○オンライン授業では、学習支援システムによる課題配布・提出、zoom によるブレイクアウトルーム、Word による課題記入を行うので、Word と zoom をインストールしたパソコンが必要。○オンライン参加の場合の提出課題は Word で記入し、授業日の 23 : 55 までに学習支援システムに提出する。

【その他の重要事項】

○外部講師の都合等により、授業の順番や内容などシラバスを一部変更することがある。○実務経験のある現職教員を2人招聘して1回ずつ授業を行う。一人は中学校・高等学校数学における指導の工夫について講義・模擬授業等を行う。もう一人は関数ソフトや図形ソフトなどの ICT 機器を活用した先進的な指導法について演習を行う。○必要があれば、メールや学習支援システム等を用いて質問してほしい。メールは随時受け付けるが、授業担当者は金曜日（5限）、土曜日（春学期は2限、秋学期は2・3・4限）の授業があるので、対面での質問等があれば授業前後に西館講師室に来てほしい。

【Outline (in English)】

○ Students will prepare and examine a course of study and understand the purpose of the course of study through mock lessons. ○ Through lectures and exercises, think about what you should be as a mathematics teacher in junior high school and high school, and improve your specialty. ○ Learn advanced teaching methods of mathematics education such as ICT equipment utilization and group learning.

SEE200LC

数学科教育法（2）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生は、学習指導案を作成・検討し、模擬授業を通して学習指導要領の趣旨を理解する。○講義や演習を通して中学校及び高等学校数学教師としての在り方を考えるとともに専門性の向上を図る。○ICT機器活用やグループ学習など数学教育の先進的な指導法を学ぶ。

【到達目標】

○学習指導要領に示された数学における目標及び内容等を理解するとともに、指導上の留意点や指導の工夫、評価規準や評価方法など、指導と評価に関する実践的指導力の向上を目指す。○ICT機器の活用の仕方について理解する。

○ Understand the goals and contents of mathematics shown in the Course of Study, and aim to improve practical teaching skills related to teaching and evaluation, such as points to keep in mind in teaching, ingenuity in teaching, evaluation criteria and evaluation methods. ○ Understand how to use ICT equipment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて講義を行う。○対面授業（ハイフレックス授業）を基本とするが、必要に応じてオンライン授業とすることがある。○今後のコロナウィルスの状況によっては全てzoomとなることもある。○zoom授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Webカメラ、マイク、wifi等の通信環境が必要。○ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoomは最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2023.1.28 現在 Ver.5.13.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロール・プレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は、学習支援システムで行う。○現職の数学教員2名を講師に招き、数学授業における指導の工夫やICT機器活用の実際等について学ぶ。○模擬授業では動画を記録し、授業の振り返りに役立てる。○2023年度「数学科教育法(1)」を履修している学生が多いので、授業テーマは同じであっても扱う教材は、できる限り重複を避ける予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	○授業ガイダンス○数学科教育の現状と課題（定期考査）	○授業計画の理解○文科省の動画及び演習を通して、ICT機器活用の在り方について学ぶ。○ジグソー法を通して、数学教育の現状について研究を深める。
2	○学習指導要領の復習○数学科教育の現状と課題（1）	○演習・講義を通して学習指導要領について復習する。（数学科）教育法(1)とは異なる内容○ディベートを通して、数学教育における現状と課題について理解を深める。
3	○教育時事等について（パワーポイントを用いた調べ学習）PC持参	○テーマについて調べて発表する活動を通して、教育時事についての理解を深める。（数学科教育法(1)とは異なる内容）

4	○数学教師の専門性	○教授問題やグループ協議により、数学教師の専門性について明らかにする。（数学科教育法(1)とは異なる内容）
5	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（1）	○模擬授業及び研究協議を通して、板書や発問など、授業技術等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。
6	○学校における数学教育の実際（1）PC持参	○現職数学教師による関数ソフトを用いた講義、演習を通して、数学教育におけるICT機器活用の現状と留意点を知る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）PC持参
7	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（2）	○模擬授業及び研究協議を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する授業について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。
8	○学校における数学教育の実際（2）	○現職数学教師による講義、演習を通して、数学教育における現状と課題を知る。（数学科教育法(1)とは異なる内容）
9	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（3）	○模擬授業及び研究協議を通して、授業における指導の工夫等について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。
10	○中学校高等学校模擬授業の実施及び研究協議（4）	○模擬授業及び研究協議を通して、ICT機器活用について研究を深める。○授業者以外は全員、生徒役と評価者になる。
11	○数学教育の現状と課題（2）（タブレットPC活用）	○ロールプレイングを通して、数学教育におけるタブレットPC活用上の課題について研究する。
12	○数学教育の現状と課題（3）（生徒対応①）	○学校で起きそうな生徒対応について、ジグソー法を通して理解を深める。
13	○数学教育の現状と課題（4）（生徒対応②）	○学校で起きそうな生徒対応について、グループ協議を通して理解を深める。
14	期末試験形式とまとめ	○関係資料持ち込み可の試験形式授業を通して、半年間の授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】○返却された提出物を基にして授業の復習を行うこと。指示に従って、全員が単元指導計画や学習指導案を作成する。○代表者による模擬授業を行うので、事前に学習指導案の構想を練っておく。○事前に配布された教員採用選考問題（専門教養）を解き、生徒に説明する方法を検討しておく。

【テキスト（教科書）】

○中学校学習指導要領○高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）、2018.3 発行○「高等学校学習指導要領解説（数学編、理数編）」文部科学省、2017.3 発行○「中学校学習指導要領解説（数学編）」文部科学省及び担当教員自作の印刷物等を配布。

【参考書】

（授業中に配布する資料）○旧東京都立教育研究所研究紀要「数学的な見方や考え方に関する研究」（平7）○東京都教職員研修センター教科基礎調査研究数学会研究報告書「事象を数理的に考察し、表現・判断する力を育成するための系統的な指導の在り方」（平26）

【成績評価の方法と基準】

○評価基準は次の通り。課題の提出状況・記述状況（50%）、授業への取り組み状況（30%）、最終回の期末試験形式授業の点数（20%）により評価する。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。

【学生の意見等からの気づき】

○前年度の授業改善アンケート結果によれば、演習が大変好評であった。○今年度もアクティブ・ラーニングを行う。○現職教師による学校の指導事例報告や ICT 機器の実習も好評であった。そのため、本授業においても同様の工夫を行う。○教員志望者が多いので、教員採用試験に役立つ内容も扱う。○教員志望者でなくても、将来保護者として必要な知見についても扱う。

【学生が準備すべき機器他】

○対面授業の際は授業中に手書きで課題に記入して授業後に提出するので、筆記用具の持参だけでよい。○PC 持参の授業では、授業日までにパワーポイント、無料関数ソフト GRAPES をインストールしておくこと。zoom による授業では、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 環境を用意してほしい。○オンライン授業では、学習支援システムによる課題配布・提出、zoom によるブレイクアウトルーム、Word による課題記入を行うので、Word と zoom をインストールしたパソコンが必要。○オンライン参加での課題には Word で記入し、授業日の 23：55 までに学習支援システムに提出する。

【その他の重要事項】

○外部講師の都合等により、授業の順番や内容などシラバスを一部変更することがある。○実務経験のある現職教員を2人招聘して1回ずつ授業を行う。一人は中学校・高等学校数学における指導の工夫について講義・模擬授業を行う。もう一人は関数ソフトや図形ソフトなどの ICT 機器を活用した先進的な指導法について演習を行う。○必要があれば、メールや学習支援システム等を用いて質問してほしいメールは随時受け付けるが、授業担当者は金曜日（5限）、土曜日（春学期は2限、秋学期は2・3・4限）の授業があるので、対面での質問等があれば授業前後に西館講師室に来てほしい。

【Outline (in English)】

○ Students will prepare and examine a course of study and understand the purpose of the course of study through mock lessons. ○ Through lectures and exercises, think about what you should be as a mathematics teacher in junior high school and high school, and improve your specialty. ○ Learn advanced teaching methods of mathematics education such as ICT equipment utilization and group learning.

SEE200LC

数学科教育法（3）

三橋 秀生、安田 和弘

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校数学・高等学校数学の内容、とくに整数や、確率と統計について、学習指導要領との関連を考えながら、一段高い立場から見直して教育内容の理解を深める。また、教材作成や統計ソフトなどを通じ、情報機器及び教材の授業設計への効果的な活用の仕方を学ぶ。

【到達目標】

数学教育について、とくに教科内容の面からの理解を深める。中学校・高等学校の教科書の内容を、発展的に捉え、俯瞰的な視野から数学教育を考える能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義や演習、実習等を組み合わせて進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの分類と処理	統計ソフトを用いてデータ処理方法を学ぶ。
2	基本統計量	基本統計量の計算方法、特徴や問題点を学ぶ。
3	2変量データと相関	統計ソフトを用いて相関関係について学ぶ。
4	離散確率分布	離散確率分布の定義や考え方を学ぶ。
5	同時分布	2変量の離散確率分布の定義や考え方を学ぶ。
6	連続確率分布	連続確率分布の定義や考え方を学ぶ。
7	推定・検定	統計的な推定や検定の考え方を学ぶ。
8	整数	整数の基本性質、整数の除法
9	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法とその応用
10	素数	素数の基本性質、算術の基本定理
11	合同式	合同式の定義、合同式の演算
12	合同式的应用	合同式の整数問題への応用
13	記数法と有理数	n進法、有理数の定義と性質
14	教材作成	教材作成、情報機器及び教材の授業設計への効果的な活用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義終了後復習を必ず行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 学習指導要領
2. R.F.C. ウォルターズ、算数からはじめよう! 数論（岩波書店）
3. 東京大学教養学部統計学教室編、統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（70%）、課題レポート等の成績（30%）で評価する。成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、各教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に提示される問や課題演習を通じて理解を深めることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

授業中に適宜指示します。

【その他の重要事項】

履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to deepen the understanding of the mathematical contents of junior high school and high school, especially integers, probability and statistics, in relation to curriculum guidelines. In addition, students will learn how to effectively use information equipment and teaching materials for lesson design through creating teaching materials and using statistical software.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students deepen their understanding of mathematics education, especially from the aspect of subject content. The goal is to develop the ability to think about mathematics education from a bird's-eye view by grasping the contents of junior high school and high school textbooks in a developmental manner.

(Learning activities outside of classroom)

Be sure to review after the lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Evaluation is based on the results of the final exam (70%) and the results of assignment reports (30%).

The method and criteria for grade evaluation may change. Specific methods and criteria in that case will be presented by each faculty member in the learning support system.

SEE200LC

数学科教育法（4）

間下 克哉、寺杣 友秀

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学・高校の数学の内容をより高い視点で見直し、学習指導要領との関係を踏まえて理解を深める。さらに、数学教育に使用されるソフトウェア **LaTeX** と **Geogebra** を使用して、数学文書の作成と教育実践に不可欠な教材の開発も行う。

【到達目標】

数学教育について、とくに教科内容についての理解を深める。
中学校・高等学校の教科書の内容を発展的に捉え、俯瞰的な視野から数学教育を考え実践する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と実習をバランスよく配置して行う。受講学生による模擬授業も行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンス	数学教員として何が重用であるか、そのために学ぶべきことについて考える教育法を学ぶ上での問題演習の考え方についても述べる
2	数学ソフトウェアの利用(1)	LaTeX による数学文書作成入門 LaTeX を用いた数式の記述の実習を行う
3	数学ソフトウェアの利用(2)	Geogebra による数学の視覚化入門 GeoGebra を用いた作図の実習も行う
4	数学的文書作成の基礎・基本	数学的文書作成の目的を理解し、作成上の注意点を理解する
5	命題論理の理解を深める	否定・かつ・または・ならば
6	集合についての理解を深める	集合の定義と記法, 部分集合, 集合演算
7	述語論理	全称命題・存在命題・否定命題に習熟する
8	写像	写像の定義, 単射, 全射を理解して無限集合を定義する
9	中間総括	8回までの課題について、教材作成の観点から総括して講評を行う
10	LaTeX を用いた教材の作成実習	LaTeX を用いて数式を含む数ページの教材を実際に作成する
11	数学ソフトウェアの利用(3)	Geogebra を用いた教材の可視化の方法を知り実習を行う
12	幾何学の様々な技法	ベクトル・座標幾何・複素数平面などについて概観する 幾何の考え方の観点からの内容も含める
13	数学ソフトウェアの活用	Geogebra を活用した教材開発実習
14	模擬授業	作成した教材の講評および模擬授業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本科目の内容は多岐にわたりますが、授業内で示される課題（レポート、演習問題）については、学習指導要領や中・高の教科書も参照しつつ、教科内容の理解を深めることを意図して解答してください。

【テキスト（教科書）】

和久井道久, 大学数学ベーシックトレーニング (日本評論社)

【参考書】

結城 浩, 数学文章作法 基礎編 (ちくま学芸文庫)
佐藤文広, 数学ビギナーズマニュアル (日本評論社)
「学習指導要領」文部科学省
「中学校学習指導要領解説 (数学編)」文部科学省 (教育出版)、
「高等学校学習指導要領解説 (数学編、理数編)」文部科学省 (実教出版)

【成績評価の方法と基準】

学期中に行う実習及び小テストの成果 (30%) と期末試験の得点 (70%) で評価します。

実習においては所定のスキルを身につけたか、試験においては、必要な数学的知識を身につけたかおよび思考過程を数学的に十分な論理性をもって表現できるかを重視して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

大学から貸与されている PC を持参すること。

【その他の重要事項】

講義は受講者の数学の知識および授業態度をみながら行うので、必ずしもシラバスどおりに進むとは限らない。

目的に書いた「中学・高校の数学の内容をより高い視点から見直す」ことができるためには、中学・高校の教科書に書かれていることは理解していることが前提である。その範囲の基礎知識が不十分であれば復習しておくこと。

【Outline (in English)】

The students will review the contents of junior high school mathematics and high school mathematics from a higher point of view, and deepen their understanding considering the relationship with the Education Ministry curriculum guidelines.

In addition, using the software **LaTeX** and **Geogebra** used for mathematics education, the students will also practice the creation of mathematical documents and the development of teaching materials that are indispensable for educational practice.

4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class.

Evaluation is based on the results of mini tests during the semester (40%) and the score of the final exam (60%).

SEE200LC

理科教育法（1）

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、「理科を学ぶ意義」を明確にし、必要な基礎的知識と技能を習得する。

【目的】中学校及び高等学校における理科の教育課程、理科の目標と内容について理解し、授業設計の向上に取り組むのに必要な基礎知識と技能を習得する。

【テーマ】中学校及び高等学校における理科の教育課程、理科授業の内容と授業、学習論

【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の基礎的な知識・技能や教師として必要な問題解決・情報活用・コミュニケーションなどの能力を修得することができる
- ・ミニ導入実験の実習で、教材開発の工夫や授業展開の方法を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる
- ・理科教育の基礎的な学習理論や評価理論を理解できる
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法）より「理科の学ぶ意義」を明確にすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する
- ・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人で一回実施する
- ・教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点から ICT 機器（JamBoard の活用、AI テキストマイニングによる分析、ChatGPT の利用など）を活用する
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPQA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	理科教師を目指す	ガイダンス 理科教育法とは何か
2	理科を学ぶ意義と教育課程	理科教育の目的 中学校及び高等学校の理科教育課程
3	理科の授業設計の方法	理科授業の実践方法及び指導法及び ICT 機器の活用
4	中学校理科の学習内容と授業づくり1	中学校理科の物理分野（エネルギー領域：小中高の関連性も含む）
5	中学校理科の学習内容と授業づくり2	中学校理科の化学分野（粒子領域：小中高の関連性も含む）
6	中学校理科の学習内容と授業づくり3	中学校理科の生物分野（生命領域：小中高の関連性も含む）
7	中学校理科の学習内容と授業づくり4	中学校理科の地学分野（地球領域：小中高の関連性も含む）
8	高等学校理科の学習内容と授業づくり1	物理基礎（領域横断的な内容も含む）
9	高等学校理科の学習内容と授業づくり2	化学基礎（領域横断的な内容も含む）
10	高等学校理科の学習内容と授業づくり3	生物基礎（領域横断的な内容も含む）
11	高等学校理科の学習内容と授業づくり4	地学基礎（領域横断的な内容も含む）
12	理科授業を支える学習論1	発達の最近接領域論・観察の理論的性質
13	理科授業を支える学習論2	学びの共同体・教育エンゲージメント
14	理科授業を支える学習論3	構成主義学習論・OPQA 論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・ミニ導入実験の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える
- ・授業デザイン、学習指導案の作成を行う
- ・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）

- ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPQA」東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・ミニ導入実験・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（30%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「グループでどのような授業方法が良いか考えてプレゼンをしたり、模擬授業をしたりすることで、より現場の教員の立場で教育について考えることができた。とてもわかりやすく楽しい授業だった」など、ワークショップ型授業や模擬授業、OPQA（一枚ポートフォリオ評価法）できたことが高評価につながった。本年度はさらにバージョンアップして対面授業で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業パソコン必須（スマホ不可）

【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

【Outline (in English)】

This class clarifies the significance of science learning science, and provides basic knowledge and skills necessary to become a science teacher.

[Objectives]The Science Education Methods (1) is the first lesson which consists of four ones on teaching theories and methods of the science subject in the high schools in Japan. Students will be required to understand the science curriculum, and then they will need to acquire the knowledges and skills improving lesson plans through introductory experiments.

[Theme] Science curriculum in the junior high and high schools, its contents and lessons, and its learning theories.

SEE200LC

理科教育法（2）

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、「理科における資質・能力」を明確にし、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を促すための知識と技能を習得する。

【目的】中学校及び高等学校における理科の学習指導理論、資質・能力、観察・実験、教材研究や ICT の効果的な活用法を理解し、ミニ模擬授業を通じて、授業設計の向上に取り組むのに必要な基礎知識と技能を習得する。

【テーマ】中学校及び高等学校における理科の観察・実験、教材研究、ICT 教育、ミニ模擬授業

【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の応用的な知識・技能や生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る授業の在り方を修得することができる。
- ・一斉授業型の模擬授業の実習で、授業展開の方法や学習指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。
- ・理科教育の実践的な学習理論や評価理論を理解できる。
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法）より「理科教師の資質・能力」を明確にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人で一回実施する。
- ・教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の視点から ICT 機器(JamBoard)の活用、AI テキストマイニングによる分析、ChatGPT の利用などを活用する。
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題と OPFA で授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	理科教育の現状と目的	理科教育の現状・課題・目的・改善 学習指導要領の解説
2	理科で育てたい資質・能力1	理科における問題解決と思考力・判断力・表現力の育成
3	理科で育てたい資質・能力2	理科における学びに向かう力・人間性等
4	理科における観察・実験・ICT 活用1	観察・実験の理論と方法論 教育 DX の理解と理科における ICT 機器の活用と実際
5	理科における観察・実験・ICT 活用2	観察・実験の意義 教育 DX の実践事例と理科における ICT アプリの活用効果と課題
6	理科教材研究の方法1 物理・化学	身近な素材を使った物理・化学教材論 (ミニ導入実験も含む)
7	理科教材研究の方法2 生物・地学	身近な素材を使った生物・地学教材論 (ミニ導入実験も含む)
8	理科授業における ICT 機器の活用	ネットワークを使った ICT 機器の活用効果・実践事例
9	模擬授業の計画と準備1	学習指導案の作成（基本的なフォーマットによる作成）オンラインバージョンアップも含む
10	模擬授業の計画と準備2	模擬授業の練習（主として一斉授業形態）
11	模擬授業1	中学校物理・化学領域（導入・展開・まとめの部分で 30 分の模擬授業） 発問・板書・机間巡視等
12	模擬授業2	中学校生物・地学領域（導入・展開・まとめの部分で 30 分の模擬授業） 発問・板書・机間巡視等
13	模擬授業3	高等学校物理・化学領域（導入・展開・まとめの部分で 30 分の模擬授業） 発問・板書・机間巡視等
14	模擬授業4	高等学校生物・地学領域（導入・展開・まとめの部分で 30 分の模擬授業） 発問・板書・机間巡視等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・ミニ導入実験や模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。
・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編 文部科学省（最新版）

【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPFA」東洋館

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・ミニ導入実験、模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（30%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する OPP シートによる自己評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「理科を学ぶ必然性のダイヤモンドランキングなどのワークショップやミニ導入実験、模擬授業、OPFA による振り返り」など、座学ではないアクティブラーニングができたことが高評価につながった。本年度はさらにバージョンアップして、従来の枠組に囚われず、理科授業 DX を実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業パソコン必須（スマホ不可）

【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職の関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

【Outline (in English)】

This class clarifies the students' abilities we aim to develop through science education, and provides knowledge and skills in developing students' ability to think, to make decisions and to express their ideas.

[Objectives]The Science Education Methods (2)is the second lesson on teaching theories and methods of the science subject. Students will be required to understand the theories of teaching science, the competences of the pupils, the methods of observation and experiment, and effective use of ICT in science subject. And then students will need to acquire the knowledges and skills improving lesson plans through their mock lessons.

[Theme] observations and experiments in science subject, studying the teaching materials, ICT education, and the short mock lessons.

SEE200LC

理科教育法（3）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、学習指導要領を理解しこれからの理科の教育に対応できる知識と技能を習得する。

【目的】理科教育の状況、これからの理科教育の見通し（学習指導要領の内容）、理科教育の目的・目標、主体的・対話的で深い学び、学習評価について学び、授業設計の向上に取り組むために必要な基礎知識と技能を習得する。

【テーマ】これからの理科教育の見通し、理科教育の目的・目標、主体的・対話的で深い学び、学習評価

【到達目標】

・ワークショップを通じて、理科の発展的な知識・技能や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業デザインの方法を修得することができる。

・ミニ導入実験や模擬授業の実習で、学習指導要領の主旨を生かした授業展開の方法や学習指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。

・理科教育の現状と課題を踏まえ、学習指導要領の目標及び内容、指導上の留意点や指導方法、評価方法などを理解できる。

・OPPA（One Page Portfolio Assessment・一枚ポートフォリオ評価法）より「これからの理科教育」について明確にすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。

・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。

・ミニ導入実験、模擬授業をそれぞれ一人で一回実施する。

・教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点からICT機器（JamBoard）の活用、AIテキストマイニングによる分析、ChatGPTの利用などを活用する。

・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う

・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

・フィールドワークとして、国分寺市科学センター「科学教室」の指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	理科教育の現状と各種学力調査の結果と見通し	国際学力調査（PISA・TIMSS）における日本の理科の現状
2	学習指導要領の変遷とこれからの理科の教育課程	学習指導要領の分析と未来の理科教育を語る
3	理科教育の目的・目標（理科を学ぶ意義と必然性）	理科が社会と向き合う授業の構築（サイエンス・シティズンシップ）
4	学習科学の理論と方法による教材研究の活用	学習科学に基づく実践事例の分析
5	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析1	物理分野の授業研究と評価
6	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析2	化学分野の授業研究と評価
7	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析3	生物分野の授業研究と評価
8	主体的・対話的で深い学びの実践事例と授業分析4	地学分野の授業研究と評価
9	中学校理科におけるこれからの評価	目標に準拠する評価 観点別評価を総括した評定「主体的に活動に取り組む態度」の評価・評定 自己評価
10	高等学校理科におけるこれからの評価	観点別評価の実施 オーセンティック・アセスメント（パフォーマンス評価・ポートフォリオ評価）
11	理科と他教科との連携	教科横断型学習 カリキュラムマネジメント

12 理科と日常生活や社会との連携

13 理科と総合的な学習との連携

14 理科におけるキャリア教育

価値観が伴う理科が社会と向き合う授業の在り方・トランスサイエンス
理科とSDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）の関連
理科と関わる職業教育（フィールドワーク、国分寺市「科学教室」予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・科学小話の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。

・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

【テキスト（教科書）】

・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）

・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

【参考書】

・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
・堀吉夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPPO」東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）

・科学小話・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（30%）

・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）

・毎授業後に記入するOPPシートによる自己評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「アクティブラーニングやICTを使った模擬授業があり非常に満足しています」「非常に生徒思いで授業も工夫されていた。楽しみながら内容をしっかりと学ぶことができた」など、ワークショップやICTを使った模擬授業ができたことが高評価につながった。本年度はさらにバージョンアップして授業で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業のパソコンは必須（スマホは不可）

【その他の重要事項】

・授業の性質上、教職志望の強い人や教職の関心の高い人の履修を前提とする。

・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

・理科教育法ⅢとⅣはなるべく連続履修を希望するが、単位の関係など事情がある場合は要相談。

【Outline (in English)】

This class provides understanding of the teachers' guidelines, knowledge and skills necessary for modern science education.

[Objectives]The Science Education Methods (3)is the third lesson on teaching theories and methods of the science subject. Students will be required to understand the learning methods such as independent and interactive learning, deep learning, and learning evaluation. In addition, through developing teaching materials encouraged critical thinking, students will need to get better their qualities and abilities on designing their lessons.

[Theme] Outlook for future science education, purpose and goal of science education, independent and interactive learning, deep learning, and learning evaluation.

SEE200LC

理科教育法（4）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科の教職に就くために、実際の授業場面を想定した実践的な知識と技能を習得する。

【目標】理科教育法（1）～（3）を総括して、実際に理科の授業が教育現場で実践できるために、必要な知識と技能を習得する。

【テーマ】教科書の活用、情報機器の活用、教材開発、教材の選択・配列、授業の展開方法、指導案の書き方、問題解決学習の方法、一人一人のミニ模擬授業と評価

【到達目標】

- ・ワークショップを通じて、理科の総合的な知識・技能や実践的なカリキュラム・マネジメントの能力を修得することができる。
- ・問題解決型の模擬授業の実習で、授業展開の方法や指導案の検討を行うことによって、学校現場で使える授業力の向上を図ることができる。
- ・理科教育の現状と課題を踏まえ、実践的な指導と評価のあり方について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に授業を展開する予定である。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・科学小話、模擬授業をそれぞれ一人で行って実施する。
- ・教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点からICT機器（JamBoard）の活用、AIテキストマイニングによる分析、ChatGPTの利用などを活用する。
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。
- ・フィールドワークとして、国分寺市科学センター「科学教室」の指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業計画と授業の構成	一斉授業から探究活動までの授業デザイン（パフォーマンス課題と逆向き設計論・ジグソー学習法・反転学習）
2	教科書の役割と位置付け	教科書の位置づけ、内容、扱い方の分析
3	授業と教材	教材の選択・配列、観察・実験の位置づけ、考察の方法
4	理科室の運営	理科室の心構えと運営 授業における安全指導 事故の具体例
5	授業の展開の方法	発問・課題・説明・討論・板書・ノートの取り方・ワークシートの作り方
6	授業におけるICT機器の具体的な活用法	反転学習を意識した動画作成を中心としたICT機器の活用事例と授業づくり
7	学習指導案の具体的な書き方1 中学校	グループワークを取り入れたレベルアップした模擬授業に向けての学習指導案作成1
8	学習指導案の具体的な書き方1 高等学校	グループワークを取り入れたレベルアップした模擬授業に向けての学習指導案作成2
9	レベルアップ模擬授業1 物理分野	ワークショップ型模擬授業1（グループワーク必須条件の模擬授業）
10	レベルアップ模擬授業2 化学分野	ワークショップ型模擬授業2（グループワーク必須条件の模擬授業）
11	レベルアップ模擬授業3 生物分野	ワークショップ型模擬授業3（グループワーク必須条件の模擬授業）
12	レベルアップ模擬授業4 地学分野	ワークショップ型模擬授業4（グループワーク必須条件の模擬授業）
13	理科における実践的授業研究の動向1	教育DXの視点から理科教育を俯瞰した授業研究・素朴概念と構成主義学習論の授業研究

14 理科における実践的授業研究の動向2 評価論に基づくオーセンティックアセスメントとエビデンスに基づく授業研究（フィールドワーク国分寺市科学教室予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・科学小話や模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。

- ・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
- ・中学校・高等学校の理科の教科書で予習をする。

【テキスト（教科書）】

- ・中学校学習指導要領解説 理科編 文部科学省（最新版）
- ・高等学校学習指導要領解説 理科編・理数編 文部科学省（最新版）

【参考書】

- ・左巻健男編著「授業に活かす！ 理科教育法 中学・高等学校編」東京書籍
- ・堀哲夫著「一枚ポートフォリオ評価 OPPIA」東洋館出版

【成績評価の方法と基準】

- ・学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・科学小話・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（30%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入するOPPシートによる自己評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「授業は教員がファシリテーターとなり、非常に実のある授業だった。また、全体の授業を促進しながらも個人をよく観察しており、各学生が気づいた重要な考えを逃さず捉え、共有することで、深い学びをもたらしていた」など、主体的に対話的に深い学びを促す方法で授業を進めたことが高評価につながった。本年度はさらにバージョンアップして、ICT機器の活用（ロイロノート、JamBoardの活用、ChatGPTの利用など）を充実させ授業で実施したい。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業でパソコンは必須（スマホは不可）

【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。
- ・理科教育法ⅢとⅣはなるべく連続履修を希望するが、単位の関係など事情がある場合は要相談。

【Outline (in English)】

This class provides practical knowledge and skills useful in applying to actual classroom settings.

[Objectives] This fourth lesson is the final one of teaching theories and methods of science subject. Each student will be required to put their science classes into practice through aggregating the those lessons as Science Education Methods (1),(2), (3).

[Theme] Utilization of textbooks and ICT equipment, developing and arranging teaching materials, writing teaching plans, developing learning methods of problem-solving and short simulated lesson, and evaluation for each student.

SEE200LC

道徳教育指導論

賞雅 枝子

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は道徳教育の目標と内容について理解するとともに、学校のすべての教育活動で行う道徳教育についてだけでなく、道徳科の年間指導計画や指導方法の習得をねらいとする。道徳教育の潮流と課題、道徳性の本質、道徳教育の歴史、中学校学習指導要領の道徳科の目標と主たる内容、道徳科授業の指導案作成と授業の在り方、学生による模擬授業の実践を行う。

【到達目標】

道徳の意義や原理等に基づき、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解し、模擬授業を行ってできるようになる。①道徳教育の潮流と課題について把握する。②道徳性の本質を説明できる。③道徳教育の歴史について理解する。④学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容を理解する。⑤「道徳」の授業を組み立てることができる。⑥模擬授業の実施とそのふりかえりを通して、授業改善の視点を身につけている。

Students are able to understand the goals and contents of moral education at a school, moral education through whole school educational activities, and curriculum and instruction of moral education. Specifically students are able to ① grasp the current situation and issues of moral education, ② explain the essence of morality, ③ understand the history of moral education, ④ know the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ design lesson plans of moral education, and ⑥ develop perspectives of how to improve lessons through the simulated lessons and their reflection.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主体的、対話的で深い学びのある授業になるように、学習課題を明確にし、問題意識を持ち、ペアやグループ・全体での話し合い活動を基本に授業を進める。授業の振り返りでは、学びを深めるためにコメントシートを書き、提出する。演習として、学習指導案の作成・模擬授業を行う。教材は、学習指導要領解説を基本に、スライド・プリント資料をもとに進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教育基本法の概要の理解と道徳教育の役割と意義について	講座のガイダンス、教育基本法・学習指導要領
第2回	道徳教育の歴史	道徳教育の歴史、道徳教育の変遷から、現状と課題と道徳科に求められている課題の考察
第3回	道徳教育の現状と課題－「道徳の教科化」とその学習評価	道徳教育・道徳科に求められている課題の考察、道徳科の目標と評価
第4回	学習指導要領解説編「道徳科における「いじめ防止」について	道徳科や他の教育活動における、「いじめ防止」の視点やその指導における道徳教科の役割

第5回	学習指導要領解説編「道徳科における「生命倫理」「生命尊重」について	道徳科の内容項目、現代的な課題とされる「生命尊重」「生命倫理」の理解と指導の実際 第4回の課題レポート提出
第6回	人権教育について学習指導要領における「人権教育」	道徳教育における人権教育をどう進めるか。道徳科の全体計画と別業、年間指導計画の構成 第5回の課題レポート提出
第7回	道徳性の発達理論「道徳科の目標」	道徳性の発達理論の理解（ピアジェ、コールバーグ理論）道徳性について考える
第8回	道徳授業の教材と指導内容（ねらいと展開、評価）の関連	学習指導要領解説編に示された授業の進め方、授業理論を理解する。第7回の課題レポート提出
第9回	学習指導案の書き方及び指導方法の工夫①授業のねらいに到達する計画的発問とモラルジレンマ型教材	学習指導案の内容と発問構成の在り方、資料吟味と適切なねらいの設定
第10回	学習指導案の書き方及び指導方法の工夫②哲学対話やシティズンシップ教育の在り方	教材をもとにした学習指導案の作成、演習「哲学対話」や「シティズンシップ教育」について
第11回	模擬授業の実施①道徳科授業をデザインする	各グループによる模擬授業指導案の発表、板書計画・ワークシート
第12回	学習指導案の書き方及び指導方法の工夫③ロールプレイの在り方	学習指導案の作成、発問構成と道徳科で行うロールプレイの理解
第13回	模擬授業の実施②お道徳科の授業をデザインする	学習指導案のプレゼンと相互評価 学習指導案提出締め切り
第14回	達成度確認テストと解説、道徳教育のまとめ	達成度の確認テストと道徳教育、道徳科の目標と内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各時間のテーマ・内容を確認し、中学校学習指導要領解説編・特別の教科 道徳編を活用して、準備学習・予習を行うこと。第4、5、7回の課題レポート、指導案の提出。特に、復習として毎時間のノートを整理し学びの内容を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳 文部科学省 教育出版 156円＋税

【参考書】

中学校学習指導要領解説 総則編
中学生の道徳「君が一番ひかるとき」光村図書 その他授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業におけるコメントシート（20%）、課題レポート・学習指導案（50%）、14回目に行う達成度テスト（30%）の点数を合わせて総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度の講座では理論とともに、哲学対話の実践や学習指導案の作成、模擬授業などの演習を進め、教育実習、教育現場の実践に役立つように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

学習指導案を作成する時必要なパソコン、ノート、配布資料をまとめるファイル等

【その他の重要事項】

道徳科で学ぶ内容は、生徒が人間として自らの生き方について考える要である。受講者もまた、本講座の道徳教育及び道徳科の授業に対して、人間としての生き方を考えようとする意欲をもつことが大切である。また将来、教師として高い教養と誠意をもって指導できるために、日常の学びや読書、サークル・ボランティア活動に積極的に取り組み視野を広げることが肝要である。中学校教諭・校長、東京都および全日本中学校道徳教育研究会会長の経験に基づいて、実践的に道徳科の授業について、講義、演習を行う。

【Outline (in English)】

This class aims to understand the goals and contents of moral education at a school and further discusses moral education through whole school educational activities as well as curriculum and instruction of moral education. Details are to explore ① the current situation and issues of moral education, ② the essence of morality, ③ the history of moral education, ④ the goals and main contents of moral education in the National Courses of Study, ⑤ how to design lesson plans of moral education, and ⑥ the simulated lessons and their reflection.

SEE200LC

特別活動論

田神 仁

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生が将来、学級担任、校務分掌担当、部活動顧問として、特別活動の各分野（学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）及び部活動において的確かつ効果的な指導が行えるよう、演習などの体験を通して資質向上を図る。○特別活動に関する知識だけでなく、部活動などに関わる教員の働き方改革、学校行事等における社会に開かれた教育課程など、今日的な教育課題についても知見を高める。○授業は、実際に起こりそうな事例を基にしてグループワーク、模擬授業、ジグソー法、ロールプレイング、ディベートなどの演習を中心にを行い、学生がそれらの体験を通して教員として必要な資質が身に付けられるようにする。

【到達目標】

特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

Extra-curricular activities are carried out in various groups, to discover and solve

problems, and to build a better group and school life. The aim of this class is to

understand the significance of extra-curricular activities in school education, and to

acquire the knowledge and background necessary for guiding such activities. For that

purpose students have to learn the perspectives of "human relations" "social

participation" and "self-realization" in pupils' developmental process, and also the

perspective of "school staff as a team" in teachers' systematic and collaborative

guidance process.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて講義を行う。○対面授業（ハイフレックス授業）を基本とするが、必要に応じて zoom 授業とすることがある。○今後のコロナウィルスの状況によっては全て zoom となることもある。○ zoom 授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 等の通信環境が必要。○その場合は、ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoom は最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2023.1.28 現在 Ver.5.13.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロール・プレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニング等を行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom 参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は学習支援システムによる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	○ガイダンス○学級活動に関する演習①（他己紹介・いいところ探し）	○授業のねらい、授業計画、進め方、評価等に関する説明。○生徒間の人間関係構築法を体験する。
第 2 回	○学級活動に関する演習②（席替え）○特別活動に関する理解。	○模擬授業を通して、席替えにまつわるトラブル対応と担任としての留意点を確認する。○学習指導要領による特別活動の目標や内容、指導上の留意点等に関する知識・理解。
第 3 回	○学級活動に関する演習③（人権尊重・WC 掃除）	○担任として、生徒の人権尊重についてディベートにより明らかにする。
第 4 回	○学級活動・生徒会活動に関する演習①（委員選出）	○グループワークと模擬授業を通して、各種委員選出に伴うトラブル対応等について学ぶ。
第 5 回	○学級活動・学校行事に関する演習①（文化祭の出し物決め）	○グループワークと模擬授業を通して、文化祭における学級の出し物を決めにおける担任としての指導の仕方を学ぶ。
第 6 回	○生徒会活動に関する演習①（生徒総会の在り方）	○生徒指導部員として、生徒総会の在り方に関するディベートを行い、問題点を明らかにする。
第 7 回	○生徒会活動に関する演習②（文化祭の実施）	○生徒指導部員として、文化祭実施に伴う問題点についてジグソー法により明らかにする。
第 8 回	○生徒会活動に関する演習③（生徒会役員選挙）	○生徒指導部員として、生徒会役員選挙を意義あるものとするための方策についてグループ協議する。
第 9 回	○生徒会活動に関する演習④（生徒会サミット）	○数校の高校の生徒会役員が集まる「生徒会サミット」に向けた役員への指導に関する研究○ロールプレイングにより生徒会サミットについて理解を深める。
第 10 回	○学級活動・学校行事に関する演習②（修学旅行の班分け）	○グループワークと模擬授業を通して、修学旅行の班分け、部屋割りに伴う問題点を明らかにし、担任として対応する力を身に付ける。
第 11 回	○学級活動・学校行事に関する演習③（AI）	○AI アプリを特別活動に活用する可否と活用するに当たっての留意点についてグループ協議を通して研究する。
第 12 回	○学級活動・学校行事に関する演習④（卒業式に関する指導）	○儀式的行事である卒業式を迎えるに当たっての 3 学年担任の指導について事例を基にしたジグソー法を通して学ぶ。
第 13 回	○特別活動に関する学校の現状	○現職教員による現状報告及び演習（予定）
第 14 回	○部活動指導に関する演習 ○まとめ	○事例を基に、ロールプレイングを通して顧問としての指導の在り方について学ぶ。○これまでのまとめを行い、重要点を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

○返却された提出物や配布資料を基にして授業の復習を行うこと。

○代表者による模擬授業を行うので、授業の振り返りも行うこと。

【テキスト（教科書）】

○特に定めない。必要があれば資料等を授業中に配布する。

【参考書】

○『中学校学習指導要領/特別活動編』○『高等学校学習指導要領/特別活動編』（最新版 文部科学省）○文科省のサイトから PDF でダウンロード可能。（https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_013.pdf）（https://www.mext.go.jp/content/1407196_22_1_1_2.pdf）○ 教授受験予定者には書籍（東山書房¥275）購入を推奨。

【成績評価の方法と基準】

○期末試験は実施しない。○評価の配分は、授業中に行う演習等に関する課題の提出状況及び内容の充実度（50%）、授業への取り組み姿勢〔平常点〕（50%）。○公欠・忌引以外の欠席の場合、授業態度は5段階評価で「1」となる。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。

【学生の意見等からの気づき】

○昨年度の授業改善アンケートで演習が大変好評であったので、概ねアクティブ・ラーニングが実現できたと思われる。○授業方針としては、一方的な講義調にならないよう、毎回演習を中心とし、学生のアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）が実現できるようにする。○現職教員による授業も好評だったので、今年度も実施する。○教員にならない学生もいると思うが、教員になることを前提に実践的な指導力向上を目指し、将来保護者になったときにも役に立つ内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

○対面授業の際は授業中に手書きで課題に記入して授業後に提出するので、筆記用具の持参だけでよい。○オンライン授業の際は、zoomによるブレイクアウトルーム、Wordによる課題記入を行うので、Wordとzoomをインストールしたパソコンが必要。○オンライン授業での課題にはWordで記入し、授業日の23：55までに学習支援システムに提出する。○外部講師によっては教室にPC持参となる場合がある。

【その他の重要事項】

○必要があれば、メールや学習支援システム等を用いて質問してほしいメールは随時受け付けるが、授業担当者は金曜日（5限）、土曜日（春学期は2限、秋学期は2・3・4限）の授業があるので、対面での質問等があれば授業前後に西館講師室に来てほしい。

【Outline (in English)】

○ In the future, students will be able to provide accurate and effective guidance in each field of extracurricular activities (class activities / homeroom activities, student organization activities, school events) and club activities as a classroom teacher, a division of school affairs, and an advisor for club activities. We will improve our qualifications through experiences such as exercises. ○ Not only knowledge about extracurricular activities, but also knowledge about today's educational issues such as work style reform of teachers related to club activities, curriculum open to society at school events, etc. will be enhanced. ○ Classes will focus on exercises such as group work, mock classes, jigsaw methods, role-playing, and debate based on actual cases, and students will acquire the necessary qualities as teachers through these experiences. To be able to.

SEE200LC

教育相談

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ 学校における教育相談の意義と理論
・ 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）

・ 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携などについて、実際の事例も交えて講義する。

○ 教科書は必ず必要です。教育心理学と同じ「伊藤・渡辺・千田（著）『現代の心理学』金子書房 2500 円＋税」です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

★詳細な授業内容については、授業開始前に、学習支援システムの中の当該科目のお知らせを確認してください。★

○ 最終成績は、定期試験の成績をもと（70 %）とし、授業への積極性・貢献度（15%）や課題レポート 1 回の成績（15 %）を加味して、決定します。

○ 伊藤ひろみのメールアドレスは、 Hiroimi.ito.rk@hosei.ac.jp です。

○ 状況が変化し、授業の内容と成績算定方式を変更するときには、改めて、お知らせします。

【到達目標】

授業の到達目標及びテーマ

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

Acquiring an understanding of the significance of educational consultation in schools and the knowledge necessary to proceed with school counseling

Cultivating basic attitudes as a teacher based on understanding psychosocial developmental tasks of today's pupils and students.

Learning to work with students with developmental disorders as well as special need education, and work in collaboration with medical and social welfare staff.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学校現場で教師が行う教育相談を念頭に小学生から 20 代までのこころの問題を中心に、その内容と分類、早期発見法、解決法、予防的教育などについて講義する。近年、さまざまなこころの問題が学校教育現場で取り上げられており、教師は教育相談の理論と方法を身に付けることが必要であることは周知のことである。児童期から青年期の「こころの問題」に対して、教師が周囲の関係者と連携して対処していくことについて、事例を含めて講義する。また、授業においてロールプレイを通して、カウンセリングの実際を取り入れたい。また、課題を数回提出してもらおうことになるが、その場合は内容についてその後の授業で解説しコメントを述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育相談とは何か	多様な生徒のいる学校現場で教師が行う相談の意味について
2	こころの問題の分類	こころの障がいの内容と発見法、治療法の概略
3	こころの問題の多様性 (1)	精神病レベル、神経症レベルのこころの障がいの概略
4	こころの問題の多様性 (2)	外因性障がい、知的障がい、人格障がいの概略
5	発達障がい	自閉症、自閉スペクトラム、広汎性発達障がいなどの概要と教育的支援
6	生徒の神経症	子どもの神経症レベルの障がいの概略
7	自分と環境に関する悩み	環境とこころの問題との関連性、子どもの貧困、社会的障がいの概略
8	子どもの社会的障がいの概略 (1)	不登校、ひきこもり、性的逸脱
9	子どもの社会的障がいの概略 (2)	いじめの問題の実際とその対応
10	カウンセリング・マインド (1)	カウンセリングに関する基礎的な理論と方法。必要な姿勢と技能
11	カウンセリング・マインド (2)	非言語コミュニケーションの役割と重要性
12	カウンセリングの役割と学校での支援	問題の見立て、査定、予測と予防的カウンセリングの役割。チームによる支援と支援各者の役割

13 カウンセリングの実際 (1) ロールプレイを通して自分の応答の特徴を知る

14 カウンセリングの実際 (2) 子どもの力を引き出す開発的カウンセリングの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

「伊藤隆一・千田茂博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年」を使用する。

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）。その他適宜プリントを配布し、授業内でもさらに書籍を紹介する。心理学・教育学関連のビデオ・DVD を見せることがある。

【成績評価の方法と基準】

総合成績は、期末試験の成績をもとに（70%）、課題レポート 1 回（15%）と授業への積極的参加度・貢献度（15%）を加味して決定する。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的で、実践的な授業を行っていきたい。

【その他の重要事項】

学校領域、医療領域で相談・カウンセリング経験のある教員が、相談業務の実際を例あげて講義する。また、精研式文章完成法テスト（SCT）を用いた子どものパーソナリティや生活環境に関する査定のコンサルテーション活動をしている。子供のパーソナリティや心身の発達過程に関する生きた事例を提供したい。「カウンセリングの実際（ロールプレイ）」に参加するには、事前の授業の知識が必須である。

【Outline (in English)】

This course (School counseling/Educational counseling) introduces the theory and method on school counseling as a teacher to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about actual issues related to school counseling, mental disorder, and so called "counseling mind".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short report:15% and In class contribution: 15%.

SEE200LC

生徒・進路指導論

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生が将来、学級担任など教員として生徒指導・キャリア教育（進路指導）を的確かつ効果的に行えるよう、演習などの体験を通して資質向上を図る。○生徒指導においては、文科省発行改訂版「生徒指導提要」を基に、生徒指導に関する知識・理解だけでなく、教育相談やいじめ、不登校、体罰禁止等の生徒指導における今日的な課題に対応できる実践的な指導力の育成を図る。○進路指導においては、文科省「キャリア教育の手引き」に基づき、キャリア教育の視点から効果的なキャリア・カウンセリングを行える教員を育てる。

【到達目標】

生徒指導の理論と方法、進路指導（キャリア教育の基礎的な事項を含む）の理論と方法を理解する。

The purpose of this class is to understand the theory and method of student

guidance and career guidance including basic matters of career education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて講義を行う。○対面授業（ハイフレックス授業）を基本とするが、必要に応じて zoom 授業とすることがある。○今後のコロナウィルスの状況によっては全て zoom となることもある。○ zoom 授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 等の通信環境が必要。○ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoom は最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2023.1.286 現在 Ver.5.13.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロール・プレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom 参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は、学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	○ガイダンス○生徒指導に関する演習①（担任としての生徒指導）	○授業のねらい、授業計画、進め方、評価等に関する理解。○実際に起こりそうな事例を基に、グループ協議を通して生徒指導上の留意点について明らかにする。
第 2 回	○生徒指導に関する演習①（生徒の人権尊重）	○ディベートを通して、生徒指導における人権尊重の在り方について研究する。
第 3 回	○生徒指導に関する演習③（校則）	○教育活動で起こりそうな事例を基に、ジグソー法を用いて、校則の在り方について研究する。
第 4 回	○生徒指導に関する演習④（教育相談・校則）	○担任として起こりそうな事例を基に、ロールプレイングを通して教育相談（苦情対応）における留意点について明らかにする。
第 5 回	○生徒指導に関する演習⑤（いじめ）	○いじめに関わる動画を基に、グループ協議により課題と対応策を明らかにする。
第 6 回	○生徒指導に関する演習⑦（模擬授業）	○学級で起こりそうな事例を基に、模擬授業を通して担任の指導の在り方を研究する。

第 7 回	○学校における生徒指導の実際	○現職教員による生徒指導・進路指導に関する講義・演習を行う。
第 8 回	○生徒指導に関する演習⑧（インターネット）	○ SNS に関わる動画を基に、グループ協議によりインターネットに関わる生徒指導の課題と対応策を明らかにする。
第 9 回	○生徒指導・進路指導に関する演習①（保護者対応）	○ロールプレイングを通して、生徒指導・進路指導の基盤となる保護者対応について理解を深める。
第 10 回	○生徒指導キャリア教育（進路指導）に関する演習②（HR でのキャリア教育）	○実際に起こりそうな事例を基に、模擬授業により担任としての対応の在り方を明らかにする。
第 11 回	○キャリア教育（進路指導）に関する演習③（3 者面談）	○実際に起こりそうな事例を基に、ロールプレイングにより担任としての進路指導の在り方を明らかにする。
第 12 回	○キャリア教育（進路指導）に関する演習④（職場体験）	○ジグソー法により、職場体験実施上の留意点を明らかにする。
第 13 回	○キャリア教育（進路指導）に関する演習⑤（推薦入試①）	○推薦入試の場面で、グループ協議を通して、3 学年担任としての指導の在り方について理解を深める。
第 14 回	○キャリア教育（進路指導）に関する演習⑤（推薦入試②） ○まとめ	○推薦入試の場面で、ディベートを通して、3 学年担任としての指導の在り方について理解を深める。○これまでのまとめを行い、重要点を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
○返却された提出物や配布資料を基にして授業の復習を行うこと。
○代表者による模擬授業を行うので、授業の振り返りを行うこと。

【テキスト（教科書）】

○特に定めなし。必要があれば資料等を授業中に配布する。

【参考書】

○【改訂版】『生徒指導提要』（文部科学省）、『中学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）、『高等学校キャリア教育の手引き』（文部科学省）
○文科省のサイトから pdf ファイルを入手可能。○教員採用試験受験予定者には書籍を購入することを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

○期末試験は実施しない。○評価の配分は、授業中に行う演習等に関する課題及びレポート（1 回）の提出状況及び内容の充実度（50 %）、授業への取り組み姿勢 [平常点]（50 %）。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1 週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。

【学生の意見等からの気づき】

○昨年度の授業改善アンケートで演習が大変好評だったので、一方的な講義調にならないよう、毎回演習を中心に進め、学生のアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）が実現する。○現職教員による授業も好評だったので、今年度も実施する。○教員にならない学生もいると思うが、教員になることを前提に実践的な指導力向上を目指し、将来保護者になったときにも役に立つ内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

○対面授業の際は授業中に手書きで課題に記入して授業後に提出するので、筆記用具の持参だけでよい。○zoom 授業の場合は、zoom によるブレイクアウトルーム、Word による課題記入を行うので、Word と最新バージョンの zoom をインストールしたパソコンが必要。○オンライン参加での課題には Word で記入し、授業日の 23：55 までに学習支援システムに提出する。○外部講師によっては、PC 持参になる場合がある。

【その他の重要事項】

○必要があればメールや学習支援システム等を用いて質問してほしいメールは随時受け付けるが、授業担当者は金曜日（5 限）、土曜日（春学期は 2 限、秋学期は 2・3・4 限）の授業があるので、質問等があれば授業前後に西館講師室に来てほしい。

【Outline (in English)】

○ In the future, we will improve our qualifications through hands-on experience such as exercises so that students can accurately and effectively provide student guidance and career education (career guidance) as teachers such as classroom teachers. ○ In student guidance, based on the "Student Guidance Guidelines" issued by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, not only knowledge and understanding about student guidance, but also today's issues in student guidance such as educational counseling, bullying, school refusal, and prohibition of corporal punishment. Develop practical leadership that can respond. ○ In career guidance, we will train teachers who can provide effective career counseling from the perspective of career education, based on the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology's "Career Education Guide."

SEE400LC

教育実習（高）

金沢 誠

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目指す。

【到達目標】

学習指導、学級経営などの活動の体験を積み重ね、教育の現場で必要となる能力を、実践を通じて獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②中学校・高等学校での実習
- ③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

特にフィードバックが必要な事項があれば、個別にメール等で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
①		
実習前	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
②		
実習中	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
①		
実習中	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うまでに、学習指導要領および教科書を

- (1) 用語の使い方を正確に理解すること
- (2) 公式や定理の論理的体系性を十分に理解すること
- (3) 公式の導出や定理の証明を簡潔かつ明瞭に解説することを目標に熟読しておくこと。

実習期間中は担当する授業内容を十分に検討して指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に評価する。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート非実施

【Outline (in English)】

The aim is to develop the basic competence of a teacher of the future, and to establish its responsibilities and awareness.

SEE400LC

教育実習（中・高）

金沢 誠

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目指す。

【到達目標】

学習指導、学級経営などの活動の体験を積み重ね、教育の現場で必要となる能力を、実践を通じて獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、

- ①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）
- ②中学校・高等学校での実習
- ③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

特にフィードバックが必要な事項があれば、個別にメール等で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
①		
実習前	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
②		
実習中	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
①		
実習中	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		
実習中	教育実習	同上
②		

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

実習中 教育実習 同上

②

実習後 事後指導 事後指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うまでに、学習指導要領および教科書を

- (1) 用語の使い方を正確に理解すること
- (2) 公式や定理の配置の論理的体系性を十分に理解すること
- (3) 公式の導出や定理の証明を簡潔かつ明瞭に解説することを目標に熟読しておくこと。

実習期間中は担当する授業内容を十分に検討して指導案を作成すること。

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習リポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に評価する。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート非実施

【Outline (in English)】

The aim is to develop the basic competence of a teacher of the future, and to establish its responsibilities and awareness.

SEE400LC

教育実習（高）

辻本 昭彦

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

【到達目標】

教育実習において、教育課程の学びを活かし授業実践や学級経営等を教育活動を通じて、自己の教育実践力を高める。また、今日の GIGA スクール構想やいじめ不登校の問題、働き方改革などの教育課題にも積極的に触れ、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともにその責任と自覚を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイザー・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中③	教育実習	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習
実習中④	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習
実習中⑤	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習
実習中⑥	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。） ・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習

実習中⑦ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）

実習中⑧ 教育実習

・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習

実習中⑨ 教育実習

・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習

実習中⑩ 教育実習

・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習

実習中⑪ 教育実習

・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習

実習中⑫ 教育実習

・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の学習指導案の作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点（60%）を主とし、実習日誌の評価（20%）、実習後にまとめる実習レポート（10%）の採点及び事後指導のレポート課題（10%）結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

特に無い

【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students establish responsibility and awareness as teachers of the future through experiences of teachers 'diverse teachers' work at the education site.

SEE400LC

教育実習（中・高）

辻本 昭彦

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する。

【到達目標】

教育実習において、教育課程の学びを活かし授業実践や学級経営等を教育活動を通じて、自己の教育実践力を高める。また、今日の GIGA スクール構想やいじめ不登校の問題、働き方改革などの教育課題にも積極的に触れ、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともにその責任と自覚を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中③	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中④	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中⑤	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中⑥	教育実習	・現職の先生の授業を見学 ・学習指導案の作成 ・授業実習 ・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑦ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑧ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑨ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑩ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑪ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑫ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑬ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑭ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑮ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑯ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑰ 教育実習

・現職の先生の授業を見学
・学習指導案の作成
・授業実習
・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

実習中⑱ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中⑲ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中⑳ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉑ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉒ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉓ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉔ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉕ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習中㉖ 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現職の先生の授業を見学 ・ 学習指導案の作成 ・ 授業実習 ・ 研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践） ・ 研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）

[Outline (in English)]

Students establish responsibility and awareness as teachers of the future through experiences of teachers 'diverse teachers' work at the education site.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の学習指導案の作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点（60%）を主とし、実習日誌の評価（20%）、実習後にまとめる実習レポート（10%）の採点及び事後指導のレポート課題（10%）結果を加味して、総合的に出される。なお、評価は、この両者を総合評価するが、それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、教育実習の経験は社会人としての自覚に目覚めるとの報告が多数聞かれる

【学生が準備すべき機器他】

特に無し

【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とする。

SEE400LC

教育実習（高）

藤井 章博

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【到達目標】

未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学
実習中③	教育実習	・学習指導案の作成
実習中④	教育実習	・学習指導案の作成
実習中⑤	教育実習	・授業実習
実習中⑥	教育実習	・授業実習
実習中⑦	教育実習	・授業実習
実習中⑧	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑨	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習後①	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後②	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後③	事後指導	事後指導として必要に応じて個別のディスカッションを設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に出される。

なお、評価は、それぞれ満点を50点とし、この両者を総合評価する。すなわち、実習レポートの採点50%、事後指導の結果50%で評価する。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。実習校の採点、日誌・レポートの採点、それぞれが30点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していない

【Outline (in English)】

For students to become high-school information teacher, practical skill training with help of real high-school.

SEE400LC

教育実習（中・高）

藤井 章博

開講時期：年間授業/Yearly

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の現場たる中学校・高等学校における教師の多様な教育実践・実務（教師の仕事）を体験することを通して、「教育」の重要性・困難性、人間性（生徒）と接し、未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立することを目的とする。

【到達目標】

未来の教師としての基礎的力量を育成するとともに、その責任と自覚を確立する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教育実習は、教員免許取得に必要な全教育課程の総仕上げとして位置づけられている。具体的には、①教育実習に向けての事前指導（現職教師の特別講義を含む）、②中学校・高等学校での実習、③実習後の反省と総括（プレゼンテーション等）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
実習前①	事前指導	第3年次（教育実習前年度）に各免許教科別に分かれて授業を行う。事前指導は、教職に関する実践的な知識と力量の基礎を身につけることを目的とする。
実習前②	教育実習特別講義	教育実習を直前に控えた学生を対象とした講義（180分）教育実習指導教員からの説明とともに、生活指導（教科指導・生活指導）に関するアドバイス・諸注意などの指導を行う。
実習中①	教育実習校でのオリエンテーション	実習校の概要や特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合わせ等
実習中②	教育実習	・現職の先生の授業を見学
実習中③	教育実習	・学習指導案の作成
実習中④	教育実習	・学習指導案の作成
実習中⑤	教育実習	・授業実習
実習中⑥	教育実習	・授業実習
実習中⑦	教育実習	・授業実習
実習中⑧	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習中⑨	教育実習	・研究授業（実習生が行う教育実習の総仕上げの授業実践）
実習後①	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後②	派遣校での反省会	・研究授業の反省会（研究授業後、実習校の先生から指導を受ける。）
実習後③	事後指導	事後指導として必要に応じて個別のディスカッションを設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当する授業の授業案の作成

【テキスト（教科書）】

各プロセスで指示

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

実習校の採点を主とし、実習日誌の評価、実習後にまとめる実習レポートの採点及び事後指導の結果を加味して、総合的に出される。

なお、評価は、それぞれ満点を50点とし、この両者を総合評価する。すなわち、実習レポートの採点50%、事後指導の結果50%で評価する。それぞれに一定の基準を満たさなければ、教育実習の単位は修得できない。実習校の採点、日誌・レポートの採点、それぞれが30点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していない

【Outline (in English)】

For students to become high-school information teacher, practical skill training with help of real high-school.

SEE200LC

幾何学 A

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学初年次の微積分・線形代数の知識まで含めて、平面や空間内の図形を調べる様々な方法について学び直し、深い理解と高度な運用能力を身につける。

【到達目標】

平面や空間の図形に関する問題を、大学初年次の線形代数や微積分で学んだ知識までを総合的に活用して、論理的に正しく、簡潔かつ明快に解説できる能力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックしてください。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合と論理	集合および論理についての基本的な用語の復習を行う。直感によらない（ベン図を用いない）集合の相等の証明も行う。
2	関係	関係、同値関係、類別、商集合について学び、数学における分類の考え方を知る
3	写像	写像に関する基本的な用語について復習し、演習を行う
4	行列群	群の概念および、例として行列のなす群について知る
5	線形空間と線形写像	線形空間と線形写像について復習し問題演習を行う
6	内積空間	内積空間、正規直交基底、グラムシュミットの直交化法について復習し問題演習を行う
7	直交行列と等長線形写像	等長線形写像が直交行列によって表されることを知り、平面および空間の合同変換の全体について学ぶ
8	座標変換	線形写像の表現行列
9	2次形式の標準化	2次形式の標準化から出発して固有値・固有ベクトルの概念を導く
10	2次曲線の分類	2次曲線の分類の概略を知る
11	複素平面	複素平面に基礎を復習し問題演習を行う
12	複素数の幾何学への応用	初等幾何の定理の証明に複素平面を利用する方法について知り問題演習も行う
13	一次分数変換	一次分数変換を定義し、その性質を学ぶ
14	総まとめ	総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高等学校の教科書の章末問題レベルの問題は解けるようになってきていること、大学初年次の線形代数、微積分について十分に理解していることが受講の前提である。

問題演習も行いますが、高校生よりはるかに高い理解、知識の高度な運用能力、高い計算能力を養うことを意図して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・ コア講義 線形代数
・ コア講義 微積分
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、到達目標に掲げた項目の到達度を、授業期間中に行う演習（30%）および期末試験（70%）によって測定することより行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

高等学校で学ぶ数学、1年次の「微積分学（及び）演習 I、II」、「線形数学（及び）演習 I、II」については、十分な知識を有するものとして講義を進めます。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

Re-learn various methods for examining figures in planes and spaces, including knowledge of calculus and linear algebra in the first year of university, and acquire a deep understanding and advanced operational ability.

【Goal】

Acquire the ability to explain problems related to planes and space figures in a logically correct, concise and clear manner by utilizing the knowledge of linear algebra and calculus in the first year of university.

【Work to be done outside of class】

[4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class]

It is a prerequisite for students to be able to solve end-of-chapter problems in high school textbooks and to have a thorough understanding of linear algebra and calculus in the first year of university.

Students should develop much higher understanding, advanced knowledge management ability, and high calculation ability than high school students.

【Grading criteria】

The evaluation is made by measuring the achievement of the items listed in the achievement goals by the exercises (30%) and the final exam (70%) conducted during the class.

SEE200LC

幾何学 B

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初等幾何学の基本概念を学び、それに基づく緻密な論理展開を理解する。その結果として得られる初等幾何学の重要な定理について理解を深める。

【到達目標】

初等幾何学について学び、図形に関する高度な知識についての理解を深める。中学校・高等学校の教科書の内容を発展的に捉え、図形について俯瞰的・体系的な考察ができる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義または演習形式で行なう。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の紹介を行う。
2	幾何学の基本事項	線分、角
3	三角形	三角形の基本性質、合同
4	四角形と円	四角形と円の基本性質
5	平行線の公理	平行線公理の解説
6	三角形の外心、内心、重心	三角形の外心、内心、重心の性質
7	三角形の垂心、傍心	三角形の垂心、傍心の性質
8	共点、共線	共線や接線の性質
9	チェバの定理	チェバの定理の解説と証明
10	メネラウスの定理	メネラウスの定理の解説と証明
11	デザルグの定理	デザルグの定理の解説と証明
12	シムソンの定理	シムソンの定理の解説と証明
13	初等幾何に関連する発展的 的話題	初等幾何と関連性のある数学の話題の 紹介
14	授業のまとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

受講前に前回までの内容をよく復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 秋山武太郎, わかる幾何学, 日新出版
2. 安藤清・佐藤敏明, 初等幾何学, 森北出版
3. 小平邦彦, 幾何のおもしろさ, 岩波書店
4. 清宮俊雄, 幾何学—発見的研究法, 科学新興社

【成績評価の方法と基準】

初等幾何学に関連した、図形に関する高度な知識についての理解が深まったかを評価する。また、図形について俯瞰的・体系的な考察ができる能力が身についたかを評価する。

期末試験の結果（100 %）で評価する。

成績評価の方法と基準を変更する場合があります。その場合の具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に提示される問や課題演習を通じて理解を深めることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜、指示する。

【その他の重要事項】

履修者の理解状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basic concept of elementary geometry and understand precise logical development based on it. Understand the important theorem of the resulting elementary geometry.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students deepen their understanding of advanced knowledge of elementary geometry and geometrical figures. Students also acquire the ability to develop the contents of junior high school and high school textbooks and to think about figures in a bird's-eye view and systematically.

(Learning activities outside of classroom)

Be sure to review after the lecture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Evaluation is based on the results of the final exam (100%).

The method and criteria for grade evaluation may change. Specific methods and criteria in that case will be presented in the learning support system.

SEE200LC

幾何学C

塚田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3次元空間の曲線、曲面に関する基本理論やガウス・ボンネの定理など重要な結果を学ぶ。

【到達目標】

線形代数・微積分学・微分方程式等を基礎とする3次元空間の曲線および曲面の理論を学ぶことにより、線形代数・微積分学等の基礎の理解を深めるとともに数学の諸分野の知識を総合して応用する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

受講者が自らの理解度を確認できるよう、適宜演習や小テストを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	曲線論・曲面論の概要、ベクトルと行列	曲線論・曲面論の概要を知る。線形代数（ベクトルおよび行列）の基礎事項を復習する。
2	ベクトルと行列（続き）、ベクトル値関数	ベクトル値関数の極限、微分法および積分法の定義を復習し、その計算方法を習得する。
3	平面曲線の曲率	平面曲線の曲率の定義及びその意味を理解する。具体例で曲率を求める計算を行う。
4	空間曲線	3次元ユークリッド空間の運動群、空間曲線の曲率、振率、フレネ・セレの公式を理解する
5	曲線論の基本定理	微分方程式の理論を用いて、曲率と振率により曲線が一意に決まることを学ぶ。
6	多変数写像の微分	多変数写像の微分、逆写像定理を復習し、具体例の計算を通じて理解を深める。
7	曲面片、曲面の定義	2変数のパラメータ表示としての捉え方を学ぶ。曲面の具体例を知る。
8	曲面の第1基本形式	曲面の第1基本形式の定義と基本的な性質を学び、具体例でそれを求める計算を行う。
9	多変数関数の積分、領域の面積	多変数関数の積分の基本的な計算方法を復習し、曲面上の領域の面積の計算などに応用する。
10	曲面の第2基本形式	曲面の第2基本形式、ガウス曲率、平均曲率の定義と基本的性質について学び、具体例でそれらを求める計算を行う。
11	測地線	変分法の考え方を知り、測地線の方程式を導く。具体例で測地線を求める。
12	グリーンの定理とガウスの発散定理	グリーンの定理およびガウスの発散定理について復習する。
13	ガウス・ボンネの定理	測地三角形の内角の和とガウス曲率の積分との関係を示すガウス・ボンネの定理について、その内容と証明のポイントを学ぶ。
14	総合演習	質疑応答および問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】線形代数、微積分学、微分方程式の初歩について十分な知識を持っていることを仮定して講義を進める。必要となる知識については、事前に指示するので、復習して知識の確認をしておくこと。

授業の復習として、授業で学んだ基本的な概念や事実について自分が納得できるように理解すること。また、演習問題を実際に解いてみて理解を確認することも大切である。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

中内伸光：幾何学は微分しないと 現代数学社

中内伸光：じっくり学ぶ曲線と曲面

間下克哉：ベクトル解析の基礎・基本 牧野書店
高等学校学習指導要領解説数学編・理数編

【成績評価の方法と基準】

曲線及び曲面の基礎理論を理解できたか、並びに線形代数・微積分学等の基礎の理解を深めるとともに数学の諸分野の知識を総合して応用する能力を身につけたかを期末試験で判断する。

成績は、期末試験の結果を60%、演習や小テスト等を40%とし、総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生に質問、コメントなど積極的な授業参加を促す。スライド、板書を効果的に使い、学生がより効率的にかつ分かり易く理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

以下のように学習支援システムを利用するので、毎回チェックすること。

・オンライン配信を実施する場合は、受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basic theory of curves and surfaces and important results as Gauss-Bonnet Theorem.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Deep understanding linear algebra and calculus
- 2) Understanding the basic theory of curves and surfaces
- 3) Applying knowledge in various fields of mathematics

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

SEE100LC

特別な教育的ニーズの理解と支援

伊藤 友彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害、外国籍や家庭養育基盤が弱いといったことなどにより特別な支援を必要としている幼児、児童、生徒が、通常の学級に在籍し、授業活動にも参加している実感を持ちながら、生きる力を身につけていくための、現状の把握、支援の方法を学ぶ。

【到達目標】

特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性、心身の発達を理解する。特に、様々な障害の学習上および生活上の困難に関する基礎的な知識を身に付け、当該の子どもの心身の発達、心理的特性、学習の過程を理解し、インクルーシブ教育を含めた特別支援教育の制度の理念や仕組みを理解する。特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。特に、支援方法の具体例を理解し、通級指導と自立活動のカリキュラム上の位置づけを理解し、個別の指導計画や教育支援計画を作成する意義と方法を理解し、コーディネーターや関係機関、家庭と連携した支援体制の構築の意義を理解している。

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援を理解する。特に、母国語や貧困の問題等により本件に該当する子どもたちの学習上、生活上の困難とその対応方法を理解し、組織的な対応の必要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義です。この授業では教科書を用います。各授業について小レポートを提出してもらいます。小レポートの課題や小レポートに対する教員のフィードバックは授業内または学習支援システムを通じて行います。新型コロナウイルスへの対応などにより授業の進め方などに変更がある場合は学習支援システムで連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法について説明する。近年の特別支援教育に関わる諸動向から、教育制度一般における特別支援の必要性を解説する。
第2回	特別な支援を必要とする子どもたち	特別な教育的ニーズについて、障害の定義や社会的な理解、教育制度の変遷との関係から解説する。
第3回	認知特性とはなにか	情報を入力し、理解し、記憶する認知特性の個人差を扱う。入力段階で制約がある視覚、聴覚障害の特性や支援についても解説する。
第4回	学習障害とその支援	学習障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学習面の支援について、ICTの活用を中心に紹介する。
第5回	AD/HD、ADD とその支援	AD/HDの特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。行動面の支援について、薬物療法と環境調整を紹介する。
第6回	自閉症スペクトラム障害とその支援	自閉症スペクトラム障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。対人面の支援について、ソーシャルスキル教育やピアサポートを紹介する。
第7回	軽度知的障害とその支援	軽度知的障害の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。学校生活の支援について、スモールステップ指導を中心に紹介する。知的障害特別支援学校の教育課程についても扱う。
第8回	肢体不自由・病弱な子どもとその支援	肢体不自由、病弱の特性や困難、心身の発達について、事例をもとに解説する。移動や心理面、人間関係の支援について紹介する。肢体不自由特別支援学校の教育課程の類型についても扱う。

第9回	家庭基盤の弱い子どもとその支援	貧困世帯や外国人児童生徒等の割合、学習や生活上の困難について、事例をもとに解説する。地域における学習支援や Japanese as a Second Language (JSL) カリキュラムを中心に紹介する。
第10回	多様性とインクルーシブ教育	インクルーシブ教育の理念をサラマンカ宣言に基づいて解説する。インクルーシブ教育を具現化するための「多様な学びの場」についても扱う。
第11回	個別の指導計画、教育支援計画	児童生徒の実態を把握し、支援計画を立案・実行・評価・改善する「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の意義と活用方法について解説する。児童生徒を校内外で組織的に支援するための機関連携について解説する。具体的には、校内委員会や特別支援教育コーディネーターの役割、スクールソーシャルワーカーや医療、保健、福祉、労働機関との連携を扱う。
第12回	多様な関係・連携と支援	介護等体験の導入経緯や意義を解説する。人権の尊重や配慮、健康・衛生管理、服装、所持品、基本的マナーについて、事例をもとに紹介する。
第13回	介護等体験の意義と留意点	アクトイブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、通常学校と特別支援学校の「学びの連続性」という点から、特別支援教育の今後の動向と教職員に求められる資質、能力を展望する。
第14回	まとめ：特別支援教育の今後の展望	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1回につき4時間を標準とします。準備学習として各授業テーマに対応する教科書の部分をあらかじめ読んでおいてください。授業後は各授業について小レポートを提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子（2014）『はじめての特別支援教育－教職をめざす大学生のために－改訂版』有斐閣アルマ

【参考書】

・中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）
 ・東京都日野市 公立小中学校全教師・教育委員会（2010）『通常学級での特別支援教育のスタンダード』東京書籍
 ・宮崎 英憲（監修）（2017）『特別支援教育の実践情報』PLUS 平成 29 年版 学習指導要領改訂のポイント 特別支援学校 明治図書出版
 ・岡南（2010）『天才と発達障害』講談社

【成績評価の方法と基準】

各授業の小レポート（50%）と期末レポート（50%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの機会を増やし、板書を工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

小レポートの提出などで学習支援システムを用いますので、機器の準備（パソコンやスマートホンなど）が必要です。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

We learn how to support and empower the educationally needy pupils and students such as the developmental and slight intellectual disabled, students with ethnic background, and with resourceless family through inclusive proposition.

【Learning Objectives】

The goal is to understand (or acquire):

- ・the characteristics of disabilities and mental and physical development of infants, children and students with special needs, in particular, basic knowledge about learning and living difficulties of various disabilities.
- ・the mental and physical development, psychological characteristics, and learning process of such child, and the philosophy and mechanism of system of special support education including inclusive education.
- ・the curriculum and support methods for infants, children and students who require special support through case studies of support methods, the position of class guidance and independence activities in the curriculum,
- ・the significance and methods of creating individual guidance plans and educational support plans.
- ・the significance of building a support system in collaboration with coordinators, related organizations, and families.

·infants, children and students who have no disabilities but have special educational needs. In particular, those who fall under this case due to problems such as their mother tongue and poverty, and how to deal with them, and the need for systematic measures.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. After each meeting, they are required to submit short reports.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on short reports (50%) and term-end reports (50%).

SEE100LC

総合的な学習の時間の指導法

辻本 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

総合的な学習の時間の意義と原理、特に学校ごとに目標や内を定める際の考え方を理解する。総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方、特に探求的な学習の基礎的な理論や対話を中心とした学習の具体的方法、および他教科との連携の方法を理解し、実際に指導計画が立てられるようになる。総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解できる。

【到達目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育む「総合的な学習・探究の時間」の指導計画の作成および具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身につけることができる。特に、数学や理科をはじめ各教科ごとに育まれる見方・考え方を働かせて、広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現する授業づくりに必要な基礎的な力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・ワークショップ形式を中心に問題解決型の授業を展開する。
- ・授業デザインや学習指導案の作成を行い、作成者同士の相互評価を行い提出する。
- ・模擬授業をグループで一回実施する。
- ・教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の観点からICT機器（JamBoard）の活用、AIテキストマイニングによる分析、ChatGPTの利用などを活用する。
- ・OPPA（One Page Portfolio Assessment）で毎時間自己評価を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ねらいと目標、進め方、総合的な学習とは何かの考察
2	「総合的な学習の時間」の位置づけ	学習指導要領の目標、授業時数、他教科との関連
3	カリキュラム上の特徴	総合的な学習の現状と分析 問題解決型学習や探究的な学習の意義とスキルアップ
4	実社会に活かす学び	学校教育と実社会経験の架橋・オーセンティックアセスメントとパフォーマンス課題
5	アクティブ・ラーニングの技法	アクティブ・ラーニングとは何か・ ワークショップとファシリテーターの役割
6	具体的な実践例 1	SDGs と人権・福祉の実践事例と模擬体験
7	具体的な実践例 2	SDGs と環境・街作りの実践事例と模擬体験
8	学校ごとの目標の立て方	学校や地域の状況における目標と内容の検討（診断的評価） パフォーマンス課題
9	年間計画と学習指導案作成の理解	カリキュラム開発と授業デザインによる学習指導案の書き方
10	学習指導案作成と実践的学習1作成と協議（中学校編）	中学校における授業デザインと学習指導案作成と協議・グループによる模擬授業とポートフォリオ評価1（形成的評価）
11	学習指導案作成と実践的学習2プレゼンと評価（中学校編）	中学校における授業デザインと学習指導案のプレゼンと評価・グループによる模擬授業とポートフォリオ評価2（形成的評価）
12	学習指導案作成と実践的学習3作成と協議（高等学校編）	高等学校における授業デザインと学習指導案作成と協議・グループによる模擬授業とポートフォリオ評価3（形成的評価）
13	学習指導案作成と実践的学習4プレゼンと評価（高等学校編）	高等学校における授業デザインと学習指導案のプレゼンと評価・グループによる模擬授業とポートフォリオ評価4（形成的評価）
14	総合的な学習・探究の時間の総括	模擬授業の総括と総合的な学習の役割を問い直す（総括的評価）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各2時間を標準とします。】

- ・模擬授業の構想を立て、実験教材の準備と練習を行い授業に備える。
- ・授業デザイン、学習指導案の作成を行う。
- ・SDGsの17の目標と169のターゲットについてネット上で予習をする。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業プリントで対応します。

【参考書】

- ・SDGs（持続可能な開発目標）関連の書籍等

【成績評価の方法と基準】

- ・模擬授業の学習指導案及び授業レポートの構想力の評価（20%）
- ・模擬授業におけるプレゼンテーションの評価（20%）
- ・ワークショップ等におけるコミュニケーションの評価・平常点（20%）
- ・毎授業後に記入する提出課題とOPPシートによる自己評価（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果、多くの学生さんから高い評価を頂いた。コメントからも、「知識を得るだけでなく、自分自身で経験した気づきから学ぶことが多く、大変有意義な時間でした。さまざまな手法を用いて、ワークショップを行い、最後にはウクライナ難民の方と実際にコミュニケーションをとるという、貴重な経験ができました。」「深い議論ができた。1つの話題を無理やり1回の授業で収めようとするのではなく数回にわたっていたのでじっくりと取り組めた。」など、ワークショップ型の授業が好評だったようである。授業改善として、対面授業における教育DXの観点から、ミニ動画作成からYouTubeの配信、JamBoardの活用、ChatGPTの利用など、GIGAスクール構想に対応できるプログラムを用意して実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業パソコン必須（スマホ不可）

【その他の重要事項】

- ・授業の性質上、教職志望の強い人や教職に関心の高い人の履修を前提とする。
- ・ワークショップを中心に授業を展開するので、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力は不可欠である。

【Outline (in English)】

Understand the significance and principles of comprehensive study time, especially how to set goals and goals for each school. Understand the concept of teaching planning for comprehensive study time, especially the basic theory of exploratory learning, concrete methods of learning centered on dialogue, and methods of cooperation with other subjects, and actually teach Be able to make plans. Understand the concept of teaching and evaluation of comprehensive study time and points to keep in mind in practice.

SEE200LC

教育方法論（ICT 活用を含む）

藤牧 朗

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の方法及び技術についての基礎的な概念、考え方や活用法を学ぶとともに、それらの知識・技能をもとに資質・能力を育成するための単元指導計画を作成する。

【到達目標】

資質・能力の育成をめざして、周りの人と協力し、教育の方法及び技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるとともに、単元指導計画を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に、対話的で協働的な授業（アクティブラーニング型授業）を進めていきます。

座席の移動を伴うグループ活動や身体的な活動、授業内での対話などが毎授業にあります。

自己評価を含む課題も原則的に毎回出しますので期限内に遅れないように提出してください（期限内に遅れた提出物は評価できません）。毎回の課題（書籍を読む、調べるなど）があります。そこをしっかりと積み重ねることが必須です。

「主体的・対話的で深い学び」に連なるさまざまな授業を体験し、その意義に気づき、ひとり一人が自分に適した学び方及び授業方法を確立できるように努めます。

授業を中心とした学校現場における広くさまざまな教育方法について、理論に基づいて理解した上で、さまざまな授業方法を疑似体験できるような時間をつくり、各自が考え、グループで議論し適当と考える方法を選択し、授業づくりを行います。

主体的に学ぶこと、対話的に学ぶこと、そしてそれによって“学び”が変わり深くなることを体験していきます。

授業終了後の課題そのプリント内容に関して次の授業時にできるだけコメントを加え、さらにその意見に基づいて授業展開を臨機応変に変化させていきます。そのことが、後の皆さんの教育活動そのものに役に立つように考えています。

必要に応じて、外部の教育実践者からのお話も入れる予定です。

全体として「入れ子構造」となった授業としていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	アイスブレイクの方法 自分たちが受けてきた教育の振り返りについて「哲学対話」を用いておこなう
第2回	情報通信技術を用いた教育方法と教師の専門性	教育方法論を通して何を学ぶかについて「哲学対話」を用いていっしょに考える
第3回	教育方法の基礎的理論、情報通信技術の活用の意義と理論	「教育とは何か」について「哲学対話」によって改めて考える
第4回	新しい学習指導要領と教育方法～知識基盤社会と社会構成主義、情報通信技術の活用	教育課程で目指しているものと教育方法を関連付けて学ぶ
第5回	教育の内容と学習活動	「教えて考えさせる授業」の考え方を理解し、実際に体験する

第6回 学習活動と学習環境、教育方法と情報活用能力 協調学習（ジグソー法）の考え方を理解し、実際に体験する

第7回 教育目標の明確化と授業のデザイン 「学びの共同体」の考え方を理解し、実際に体験する

第8回 個に応じた指導の工夫と情報通信技術の利用可能性 「学び合い」の考え方を理解し、実際に体験する

第9回 主体的・対話的で深い学び 演劇的手法を取り入れた授業の考え方を理解し、実際に体験する
「身体活動が思考を深める」ことを認識する

第10回 学力と評価の観点～「指導と評価の一体化」とルーブリックの利用 ルーブリックを作成・使用中で「学力とは何か」を考え、評価とはどのようにあるべきかを考える

第11回 「個別最適な学び」と情報機器及び教材の実践的活用 K P法及びICT機器利用の場合の授業展開の実際を比較して考える

第12回 個に応じた生徒指導などの指導技術の工夫 さまざまな場面での生徒とのかわりについて考える

第13回 教育評価～情報技術を利用した3観点評価による個別の実践と評価を行う

第14回 授業のまとめ、テスト 授業のデザインの中での反省と評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・毎授業時の小課題（自己評価を含む）について考え記述提出する。
・授業の中で言及された書籍及び論文を読む。

・学習指導案作成課題を行う。

☆上記のことは必須。必ず必要なものは読み記述し発言し身につけて進めるように努めること。

【テキスト（教科書）】

梶谷真司「考えるとはどういうことか」幻冬舎新書、2018（840円＋税）
渡部淳「アクティブ・ラーニングとは何か」岩波新書、2020（800円＋税）

藤牧朗「“深い学び”を促すアクティブラーニング型授業と評価を考える」法政大学教職課程年報 Vol.20、2022

藤牧朗「高校1年物理基礎指導を通し、中高一貫校で学ぶ意義を考える」法政大学教職課程年報 Vol.21、2023

【参考書】

文部科学省「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」（最新版）
溝上慎一「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂、2014

奈須正裕「資質・能力と学びのメカニズム」東洋館出版社、2017
秋田喜代美・佐藤学「新しい時代の教職入門」（改訂版）有斐閣、2015
市川伸一「授業からの学校改革」図書文化、2017

西川純「2030年教師の仕事はこう変わる」学陽書房、2018

鏑木良夫「わかる授業の指導案 80」芸術新聞社、2013

渡部淳＋獲得型教育研究会「AL 授業が活性化する参加型アクティビティ入門」学事出版、2018

川島直、皆川雅樹「アクティブラーニングに導くKP法実践」みくに出版、2016

石井英真「授業づくりの深め方」ミネルヴァ書房、2020

松下佳代「対話型論証と学びのデザイン」勁草書房、2021

小林和雄「真正の深い学びへの誘い」晃洋書房、2019

その他適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（毎回の課題提出を含む）姿勢（50 %）

課題（指定の学習指導案）（30 %）

期末試験（20 %）

をもとに総合的に評価します。

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%

To produce a teachers edition: 30%

in class contribution and short reports: 50%

【学生の意見等からの気づき】

実際に授業中など学校内であった生徒とのやり取りなど、できるだけ直近の中学校高等学校で起こった実体験に基づいた具体的な話を入れていく予定です。

学校現場で必要となる実践的なことをその理論の支えとともに皆さんに身につけられるように伝えていきたいと考えた授業展開をしていきます。いわゆる「入れ子構造」になっています。

学びの促進を促すため、内容及び順序を入れ替えて授業を行うことが多くなりますのであらかじめご承知おきください。また、都合が付けば、外部から教育実践者をお呼びしお話をさせていただきます。受講生から、

「哲学対話や演劇的手法を学ぶことができた。」「多彩なグループワークを体験できて自分の意見に自信をもつことができた。」「この授業を受けたとき、初めは違和感や反感を感じたが、あとになってそれは今までに板書を写す授業しか受けていなかったからだとわかった。」「活動することにより理解が深まるということがとても実感できました。」

などなど意見をもらっています。

「専門科目ではないので、授業時間以外に時間をとられないようにして欲しい」という意見がありましたが、これにはお応えできません。大学生として、最低限必要な主体的な学びを求めます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンまたはタブレットを準備してきてください。

【その他の重要事項】

授業の性質上、教職志望の強い人が履修していることを前提とします。したがって、授業時及び課題の未提出、授業中の過度の私語、居眠りなどは原則として単位を認定できません。

受講学生数及び進路希望等諸般の事情により、授業内容の進め方等は変わります。ご承知おきください。

私立文系、国立理系の大学を卒業しています。

現在まで、教員免許 10 枚（文系理系共に含む）を所持し、公立中学校、公立高等学校、公立中等教育学校、私立中学校、私立高等学校（全寮制も含む）、さらに専門学校、そして、共学校、男子校、女子校など多種多様な学校での教員をしてきました。また、塾、予備校での指導や経営も経験してきました。教科担当としても、理系文系にかかわらず担当指導してきました。

【Outline (in English)】

This class aims to examine basic concepts, ideas and application of education methods and techniques. Also, on the basis of this knowledge and skills, the class further discusses how to develop lesson plans to enhance competencies and actually design them.

SEE200LC

情報化社会と職業

藤井 章博

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校の「情報」関連科目を教授するために必要な基本的知識の習得を行う。また、高度情報化社会を形作る、重要な情報技術を取り上げ、それらを社会的な観点から俯瞰する。さらに、職業の現場で利用されている情報技術の事例を述べ、情報教育後のキャリアパスに関する理解を深める。

【到達目標】

「高等学校学習指導要領」に定められている教育項目に従い、情報教育の目標となっている情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報社会に参画する態度の3つの柱の達成を目標とする。前2項目は、応用情報工学科カリキュラムのなかで涵養されることを前提に、特に情報社会の現状を深く理解することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

座学によって、関連知識・背景を説明した上で、ビデオ教材を利用し、テーマの理解を深める。その上で、議論・レポートによって履修者の考えを深める。レポートの内容に関する発表会を実施し、生徒間で意見交換を行ったうえで指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報化社会に至る道（歴史的視点）	コンピュータとネットワークの技術進化の過程を振り返る。
2	ビジネスと情報システム I（概要）	職業分野でコンピュータがどのように利用されているか。食品流通分野での事例
3	ビジネスと情報システム II（各種オペレーション）	前回の続き、機械部品流通分野での事例
4	高度情報化社会とイノベーション	NHK作成DVD、プロジェクトX鑑賞。流通分野での情報化。
5	情報システム開発の実際	同上。情報システム開発の現場。イノベーションの実際。
6	ビジネスと情報システム III（分散処理）	同上。高速コンピュータシステムの開発事例
7	情報化社会の人材育成	情報技術分野の資格試験の概要。
8	国際社会と高度情報化社会	海外の情報通信分野の施策紹介。
9	情報倫理と情報管理 I（法的規制）	職業倫理と情報倫理について、過去の事例を学ぶ。フォードピント事件に関する映像資料の鑑賞。
10	情報倫理と情報管理 II（職業倫理）	映像資料の鑑賞続き。
11	高度情報化社会と国家政策	次世代情報通信ネットワークの姿。総務省の施策検証。
12	情報通信政策の現状	国内の情報通信分野の施策紹介。
13	情報通信の将来像 I（予測調査結果より）	文部科学省、科学技術予測調査の概要と今後の情報通信分野の予測結果の紹介。
14	情報通信の将来像 II（先端技術動向）	前回の続き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】自らが、初等・中等教育の現場で「情報」分野の授業を担当し教育することを想定する。その演習内容の企画を考えてほしい。講義内容を参考に期末に提出するレポートに反映していただきます。

【テキスト（教科書）】

「高等学校学習指導要領解説・情報編」文部科学省

【参考書】

近藤勲編著「情報と職業」丸善
 本田敏明編著「情報教育の新パラダイム」丸善
 山田恒夫「情報のセキュリティと倫理」放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】

「授業外に行うべき学習活動」欄で述べた模擬授業内容に関連するレポートを提出する。その評価と出席率を総合的に評価する。出席し、教室で討論を行うことを80%、学期末の総合レポートの評価点を20%とし、採点する。6割以上の出席とレポートの提出は、採点の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオ教材を利用することは好評であり、利用するコンテンツの吟味・刷新を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】For students to become high-school information science, basic knowledge and common issues are taught. 【Learning Objectives】 Students are to understand TCP/IP, HTTP protocol and Web service basics. 【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. 【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%、Short reports : 10%、in class contribution: 10%

SEE300LC

教育実習（事前指導）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生は、教育実習を行うに当たって理解しておくべき基本的な考え方を学ぶ。：①実習前に準備しておくこと②実習中の心構え③実習後のまとめと反省の仕方に分けて、教育実習の在り方等について学ぶ。○授業をはじめ、学校での様々な場面の生徒との関わりを模擬体験し、生徒の心理や行動について理解を深める。○生徒指導やキャリア教育、保護者対応など、演習を通して学級経営に関わる教員の職務を理解する。

【到達目標】

○教員に求められている資質・能力の具体的な内容から教育実習の目的を理解する。○単元指導計画の立案、学習指導案の作成、学習指導の技術・課題等の整理に関する知見を身に付け、教育実習生としての資質向上を図る。○生徒指導や学習指導、進路指導等に関する基本的な知識を身に付けるとともに、演習を通して教員としての意識高揚及び実践的指導力の向上を図る。○学級の意義と学級経営の在り方を知り、担任業務を学ぶ上での心構えと準備ができる。○4年生による「教育実習報告」「教育委員会による教探説明」「合格体験談発表会」「卒業生教員を囲む会」を通して教職の現状を知り、教育実習や教職への意欲を高める。○これからの教員に求められる資質・能力や学校の実態、教員研修や働き方改革等学校教育の現状に関する知見を深める。

○ Understand the purpose of educational training from the specific contents of the qualities and abilities required of teachers. ○ To acquire knowledge about the planning of unit instruction plans, the creation of learning instruction plans, and the arrangement of learning instruction techniques and issues, and to improve the qualifications as an educational trainee. ○ To acquire basic knowledge about student guidance and learning guidance, and to raise awareness as a teacher and improve practical leadership through exercises. ○ Know the significance of the class and the ideal way of class management, and be prepared and prepared for learning the homeroom teacher. ○ Learn about the current state of the teaching profession through the "educational training report" by the 4th graders, "teaching training briefing session by the board of education", "passing experience story presentation", and "meeting to surround graduate teachers" to increase motivation for educational training and teaching profession. .. ○ Deepen knowledge about the qualities and abilities required of teachers in the future, the actual situation of schools, and the current situation of teacher training and work style reforms.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて zoom 授業とすることがある。○今後のコロナウィルスの状況によっては全て zoom 授業となることもある。○ zoom 授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 等の通信環境が必要。○ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoom は最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2022.1.28 現在 Ver.5.15.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロールプレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom 参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は、学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	◎講義概要説明等のガイダンス◎人権教育	○講義概要等の説明○履修カルテの提出○動画を用いて、グループ協議を通して、人権教育について理解を深める。
第 2 回	◎教育実習に向けた教職の理解	○理科数学合同で、教育実習に向けた意識等に関するグループワークを通して理解を深める。
第 3 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（1）中学校	○中学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消（3・4年生合同）
第 4 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（2）高等学校	○高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消（3・4年生合同）
第 5 回	◎教育実習における留意点	○グループワークを通して、教育実習における留意点について理解を深める。（理数合同）
第 6 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（3）数学教育	○中学校・高等学校における数学の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消（3・4年生合同）
第 7 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（4）中高一貫教育	○中高一貫教育校における数学の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○中高一貫教育校における教育実習の留意点の明確化（3・4年生合同）
第 8 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（5）学校運営	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○校務分掌など教員の仕事の確認（3・4年生合同）
第 9 回	◎4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（6）道徳教育	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○道徳教育に関する理解（3・4年生合同）
第 10 回	◎教員採用選考合格者体験談発表会（理数合同）	○合格体験談を聞くことを通じて、教育実習での心構えや教員採用選考への準備の仕方学ぶ。（理数合同）
第 11 回	◎教育委員会による教員採用選考説明・卒業生を囲む会（理数合同）	○働き方改革、教員研修など、教職の意義と教員生活の現状について学ぶ。（理数合同）
第 12 回	◎人生の岐路	○ディベートを通して教員のライフステージに関する理解を深める。
第 13 回	◎教育時事についての理解（キャリア教育）◎担任の業務の理解（保護者対応）	○ロールプレイングを通じたキャリア教育に関する事例研究○履修カルテ返却
第 14 回	◎教員の守秘義務についての理解	○グループ協議を通して、守秘義務について理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
○中学校及び高等学校の学習指導要領全体について理解を深めておく。
○学習指導要領（中高数学科）に目を通し、特に学習指導案を作成する単元について調べておく。
○日々の学校教育に関わるニュースや現場の課題等（教育時事）について関心を持ち、考察する。
○教員採用選考受験予定者は、志望自治体の教員採用選考に関する知見を深めておく。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

○学習指導要領中学校数学（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校数学（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○【改訂版】生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

【成績評価の方法と基準】

○期末試験は実施しない。○評価の配分は、授業中に行う演習等に関する課題の提出状況及び内容の充実度（50%）、授業への取り組み姿勢〔平常点〕（50%）。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。★本授業の評価と実習校による評価とを併せて次年度の科目「教育実習」として評価される。したがって、3年次末には本授業の評価は受講者に通知されない。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は授業改善アンケートの対象ではないが、前年度の受講生からの聞き取りによれば、演習を重視したアクティブ・ラーニング、4年正等による合格体験談発表会、教採説明・卒業生を囲む会が極めて好評であった。そのため、今年度も主体的・対話的で深い学びに向けた授業や上記のイベントを実現する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に持参すべきものがあれば、事前に通知する。

【その他の重要事項】

- ★本授業の単位を取得できなかった場合は、教育実習を行うことができない。
- ★2時間連続授業が数回あり、それに伴って休講となる日もあるので注意すること。
- ★「3・4年合同」「理数合同」となる回があるので注意すること。
- ★授業計画表は、夏休み中に配布及び掲示する。

【Outline (in English)】

○ Students will learn the basic ideas that should be understood when conducting mathematics education in practical training. : (1) Preparations before the training (2) Attitudes during the training (3) After the training, learn about the ideal way of teaching training by dividing it into a summary and how to reflect on it. ○ Experience the relationships with students in various situations at school, including classes, and deepen their understanding of their psychology and behavior. ○ Understand the duties of teachers involved in class management through exercises such as student guidance, career education, and parental support.

SEE300LC

教育実習（事前指導）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は○教育実習で理科教育を行うに当たって理解しておくべき基本的な考え方を学ぶ。：①実習前に準備しておくこと②実習中の心構え③実習後のまとめと反省の仕方に分けて、教育実習の在り方等について学ぶ。○授業をはじめ、学校での様々な場面の生徒との関わりを模擬体験し、生徒の心理や行動について理解を深める。○道徳や特別活動、更には学級経営に関わる教員の職務を理解する。

【到達目標】

○教員に求められる資質・能力の具体的な内容から教育実習の目的を理解する。○単元指導計画の立案、学習指導案の作成、学習指導の技術・課題等の整理に関する知見を身に付け、教育実習生としての資質向上を図る。○生徒指導や学習指導等に関する基本的な知識を身に付けるとともに、演習を通して教員としての意識高揚及び実践的指導力の向上を図る。○学級の意義と学級経営の在り方を知り、担任業務を学ぶ上で心構えと準備ができる。○4年生による教育実習体験報告会を通じて、自らの教育実習における課題を明確にする。○教育委員会による教員採用選考説明会を通して、これからの教員に求められる資質・能力や学校の実態、教員研修や働き方改革等の現状に関する知見を深める。○今年度の教員採用選考合格者の体験報告を通じて教員としての意識高揚を図るとともに、採用選考への準備を始める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業は講義だけでなく、グループ協議やロールプレイング等の演習の他、教職課程履

修中の4年生と連携し、教育実習報告会や合格体験談発表会を通して、教育実習に当

たったの留意点の確認、教員採用選考へ向けた意識高揚を図る。

・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う。

・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受

講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	○講義概要説明等のガイダンス、学習指導要領について	○講義概要の説明○年間授業計画提示○履修カルテの提出○学習指導要領に関する講義・演習
第2回	○教育実習に向けて	○教育実習に向けた意識等に関するワークショップ等のグループワーク○教育実習におけるICT機器の活用スキルアップ
第3回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（1）中学校	○中学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第4回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（2）高等学校	○高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第5回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（3）私立学校	○私立学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○公立学校との違いの理解
第6回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（4）理科教育	○中学校・高等学校における理科の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消
第7回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（5）中高一貫教育	○中高一貫教育校における理科の教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○中高一貫教育校における教育実習の留意点の明確化
第8回	○4年生の教育実習体験報告を通じた実習課題の明確化（6）学校運営	○中学校・高等学校における教育実習の実態把握○意見交換による疑問点の解消○校務分掌など教員の仕事の確認
第9回	○教育実習で体験すること	○教育実習で体験すると予想される事例について、グループワークや発表等を通して対策を協議・検討する。
第10回	○学習指導案○教育実習で起こる生徒指導○教員の在り方	○学習指導案の書き方に関する講義○生徒指導及び教員の在り方等に関するグループ協議○授業外課題の提示（学習指導案）

第11回 ○教員採用選考合格者体験談発表会

○合格体験談を聞くことを通じて、教育実習での心構えや教員採用選考への準備の仕方を学ぶ。

第12回 ○教育委員会による教員採用選考説明会

○働き方改革、教員研修など学校教育の現状についての講義○教員採用選考に向けた準備内容・方法等の確認○各都県の教員採用選考についての理解

第13回 ○教育時事についての理解（GIGA スクール構想・いじめ不登校・働き方改革などの教育課題・教師の専門性・キャリア教育等）

○ロールプレイングを通じた教育時事に関する事例研究○履修カルテ返却※授業外課題の提出

第14回 ○教育実習等に関する再確認

○グループワークを通じた教育実習等に関する再確認○教育実習における抱負と課題の明確化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】○中学校及び高等学校の現行及び次期学習指導要領全体について理解を深めておく。○次期学習指導要領（中高理科）に目を通し、特に学習指導案を作成する単元について調べておく。○日々の学校教育に関わるニュースや現場の課題等（教育時事）について関心をもち、考察する。○教員採用選考受験予定者は、志望自治体の教員採用選考に関する知見を深めておく。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

○学習指導要領中学校理科（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校理科編理数編（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

【成績評価の方法と基準】

○授業中の取り組み姿勢と学習内容：一枚ポートフォリオ評価OPPA（50%）○毎回の授業で課される提出課題の学習状況（50%）により評価する。○期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は授業改善アンケートの対象ではないが、毎年の受講生からのOPPA（一枚ポートフォリオ評価法）によるコメントより、教育実習シミュレーションや教師の資質・能力に関するグループディスカッションやプレゼンなど、アクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習を行ったことが極めて好評であった。また、教採を意識した講演会や先輩の話聞く会なども教育実習のモチベーションを向上させることができた。さらに、4年生とグループによる交流授業を行い、教育実習や進路の具体的な学びができた。今年度の本授業においては、一層参加型の授業と教採を意識した外部講師の講演などの充実を図り、教職課程センターとの連携もより一層の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

毎時間のパソコンは必須（スマホは不可）

【その他の重要事項】

この授業に合格しない者は、教育実習を行うことができない。本授業の評価と実習校による評価とを併せて次年度の科目「教育実習」として評価される。したがって、3年次末には本授業の評価は通知されない。

【Outline (in English)】

Students ○ learn basic concepts to understand in mathematics education in teaching practice. : ① Preparing before practical training ② Mental attitude during practical training ③ the way of teaching practical training etc. divided into how to summarize after practical training and how to reflect. ○ Simulate experiences related to students in various situations at school, including classes, and deepen their understanding of students' psychology and behavior. ○ Understand the morals and special activities, as well as the duties of teachers involved in class

SEE400LC

教職実践演習（中・高）

辻本 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業を通して、教職課程全体で得た教員として必要な知識技能を習得できたか否かを確認する。必要なら不足している知識や技能等を補うとともに、更なる資質向上を目指す。

【到達目標】

教員に相応しい知識・技能及び教職を目指す姿勢の向上を目標とする。具体的には、①学習指導案作成や生徒への指導等、授業に関する実践的指導力の向上②理科における教育内容・方法についての研究及び教材作成能力の向上③生徒理解及び学級経営の在り方に関する知見習得④将来の教育職に向けた意志の確認と各自の目標の設定⑤教員として必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の体得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は講義だけでなく、グループワーク、ディベート、ロールプレイングなどのワークショップ形式で実施する。
- ・教職履修の3年生への教育実習報告及び質疑応答を通して教育実習を含め教職課程全体を振り返る。
- ・OPPA（一枚ポートフォリオ評価）で毎回自己評価を行う。
- ・教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点からICT機器（JamBoardの活用、AIテキストマイニングによる分析、ChatGPTの利用など）の積極的に活用する。
- ・学習支援システムを通じて、毎回の提出課題とOPPAで授業のふりかえりを行い、受講者の考えを整理し、コメントを行い、必要に応じて授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	◎本講義の目標と性格について	◎本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。◎学習指導要領に関する講義・演習
第2回	◎教職について及び教員としての意識のもち方等の再確認	◎グループワークを通じた教職や教師の意識等に関する知見収集
第3回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（1）中学校	◎中学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第4回	◎教育実習報告を通じた実習のまとめと3年生への助言（2）高等学校	◎高等学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第5回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（3）私立学校	◎私立学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第6回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（4）理科教育	◎理科の教育実習における成果と課題の報告と後輩へのアドバイス
第7回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（5）中高一貫教育	◎中高一貫教育校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス
第8回	◎教育実習報告を通じた3年生への教育実習アドバイス及び検討（6）学校運営	◎中学校・高等学校における校務分掌等の業務についての報告と後輩へのアドバイス
第9回	◎教育時事について	◎教育時事の話題（GIGAスクール構想・いじめ不登校・働き方改革）等について、グループワークを通じた理解
第10回	◎生徒指導について	◎校務分掌、基本的な生活習慣等生徒指導に関する講義◎いじめ、校則に関する演習
第11回	◎教員採用選考合格者による後輩へのアドバイス◎教育実習体験報告（秋季実施分）	◎教員採用選考に関する体験報告を通じた振り返りと後輩へのアドバイス◎秋季実施の教育実習報告による振り返りと後輩へのアドバイス

- 第12回 ◎学級経営について ◎事例による演習を通じた担任としての指導力向上◎自己肯定感の向上を図る学級経営の在り方
- 第13回 ◎キャリア教育について◎進路指導について ◎講義を通じたキャリア教育に関する理解◎事例に基づくグループ協議を通じた進路指導についての理解
- 第14回 ◎教育DXやSDGs等の今日の教育課題の確認◎教育実習体験等のまとめ及び教職課程の総括 ◎グループワークによる今日的教育の理解◎半年間のまとめと教職への意識の高揚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】◎教育実習の体験をまとめ、プレゼンテーションの準備をする。◎教科指導や生徒指導等について、教育実習の体験を踏まえて再確認する。◎社会的に話題になった教育問題等の教育時事について把握し、自分の考えをもつ。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて資料を配布、あるいは指定する。

【参考書】

◎学習指導要領中学校理科（平成29年3月文部科学省）◎学習指導要領高等学校理科編理数編（平成30年3月文部科学省）◎中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）◎高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）◎生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）◎授業中の配布資料

【成績評価の方法と基準】

◎授業中の取り組み学習状況：一枚ポートフォリオ評価OPPA（50%）◎授業後の提出された課題の学習内容と状況：提出課題（50%）により評価する。◎期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケート結果によれば、アクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習やワークショップを行ったことが極めて好評であった。また、OPPAによる学びのキャッチボールで、受講者の自己肯定感を意識したコメントも学びを促進する効果が大きかった。さらに、はじめて実施した3年生とのグループ交流授業も好評であった。そのため、本年度も参加型授業に向けて更なる工夫やOPPAによる評価を継続的に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎授業のパソコンは必須（スマホは不可）

【その他の重要事項】

- ・教育実習の報告会を実施する
- ・数学教育法の受講生や3年生との交流授業を実施する

【Outline (in English)】

Through this lesson, students confirm whether they have acquired the necessary knowledge skills as teachers obtained through the teacher training course as a whole. If necessary, supplement missing knowledge and skills, and aim for further improvement of qualities.

SEE400LC

教職実践演習（中・高）

田神 仁

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

○学生は、本授業を通して、教職課程全体で得た教員として必要な知識技能を習得できたか否かを確認する。必要なら不足している知識や技能等を補うとともに、更なる資質向上を目指す。

【到達目標】

○教員に相応しい知識・技能及び教職を目指す姿勢の向上を目標とする。○具体的には、①学習指導案作成や生徒への指導等、授業に関する実践的指導力の向上②数学科における教育内容・方法についての研究及び教材作成能力の向上③生徒理解及び学級経営の在り方に関する知見習得④将来の教育職に向けた意志の確認と各自の目標の設定⑤教員として必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力の体得⑥ ICT 機器の活用の在り方に関する理解

○ The goal is to improve the knowledge and skills suitable for teachers and the attitude of aiming for a teaching profession.

○ Specifically, (1) Improving practical teaching skills related to lessons, such as creating learning guidance plans and teaching students (2) Improving the ability to study educational content and methods in the mathematics department and create teaching materials (3) Understanding students and managing classes Acquiring knowledge about the ideal way (4) Confirming the will for future educational profession and setting individual goals (5) Acquiring the communication ability and presentation ability required as a teacher (6) Understanding how to utilize ICT equipment

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○授業は演習を中心とし、必要に応じて講義を行う。○対面授業（ハイフレックス授業）を基本とするが、必要に応じて zoom 授業とすることがある○今後のコロナウィルスの状況によっては全て zoom 授業となることもある。○ zoom 授業の場合は、インターネットにつながるノートパソコン、Web カメラ、マイク、wifi 等の通信環境が必要。○ブレイクアウトルーム間移動等の機能を使用するため、zoom は最新バージョンに更新しておくこと。（参考：2023.1.28 現在 Ver.5.15.5）○授業の進め方：毎回、演習の中でグループ協議、調べ学習、ロール・プレイング、ジグソー学習、ディベート、模擬授業等のアクティブ・ラーニングを行う。○課題の配布・提出及び返却は、対面授業参加者は教室で、zoom 参加者は学習支援システムを用いて行う。○資料の配布は、学習支援システムで行う。○3年生に対して行う「教育実習報告」は事後指導を兼ね、教職課程のまとめとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	◎オリエンテーション ◎宿泊行事に関する理解	○本講義の性格、課題、到達すべき目標の確認。○文科省の動画及び事例研究を通して ICT 機器活用について学ぶ。○教育実習報告会の日程調整○履修カルテの提出 ○事例を基に、ロールプレイングを通して、宿泊行事に関する理解を深める。
第2回	◎今日的な教育課題に対する研究①（修学旅行）	○事例を基に、ジグソー法を通して修学旅行実施上の留意点について理解を深める。（理数合同）

第3回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (1) 中学校	○中学校における教育実習の留意点等についての報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第4回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (2) 高等学校	○高等学校の教育実習における成果と課題の報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第5回	◎教育実習における留意点	○グループワークを通して教育実習に対する理解を深める。(理数合同)
第6回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (3) 数学教育	○数学教育における教育実習についての報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第7回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (4) 中高一貫教育	○中高一貫教育における教育実習についての報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第8回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (5) 学校運営	○実習校における校務分掌等の業務についての報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第9回	◎教育実習報告を通して3年生への教育実習アドバイス及び検討 (6) 道德教育	○道德教育における教育実習についての報告と後輩へのアドバイス (3・4年生合同)
第10回	◎教員採用選考合格者による後輩へのアドバイス◎教育実習体験報告（報告未実施分）	○教員採用選考に関する体験報告を通した振り返りと後輩へのアドバイス○秋季実施の教育実習報告による振り返りと後輩へのアドバイス (理数合同)
第11回	◎教員採用試験に対する理解◎教員生活に関する理解	○教育委員会による説明を通して、教職について理解を深める。○現職教員である卒業生を囲み、教員生活等について理解を深める。(理数合同)
第12回	◎生徒の人権尊重	○事例を基にしたディベートを通して、教員としての指導の在り方について理解を深める。
第13回	◎教育時事についての理解（キャリア教育） ◎担任の業務の理解（保護者対応）	○講義・演習を通したキャリア教育に関する理解○事例に基づくグループ協議を通した保護者対応についての理解
第14回	◎部活動指導と教員の働き方改革	○グループ協議を通して、今日の教育課題について理解を深める。○半年間のまとめと教職への意識高揚を図る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
○返却された提出物や配布資料を基にして授業の復習を行うこと。
○代表者による模擬授業を行うので、授業の振り返りも行うこと。

【テキスト（教科書）】

○特に定めない。必要があれば資料等を授業中に配布する。

【参考書】

○学習指導要領中学校数学（平成29年3月文部科学省）○学習指導要領高等学校数学（平成30年3月文部科学省）○中学校キャリア教育の手引き（平成23年5月文部科学省）○高等学校キャリア教育の手引き（平成24年2月文部科学省）○【改訂版】生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）○授業中の配布資料

【成績評価の方法と基準】

○期末試験は実施しない。○評価の配分は、授業中に行う演習等に関する課題の提出状況及び内容の充実度（50%）、授業への取り組み姿勢〔平常点〕（50%）。○出欠回数を評価に加えることはないが、欠席すると授業への取組姿勢（平常点）の評価が「1」となるため、かなり不利になる。欠席がないことを期待する。○欠席の場合でも、1週間以内に課題を学習支援システムに提出すれば、課題についての評価は「3」以上となる。○公欠の場合、事前に申請すれば公欠届の提出は事後でもよい。○公欠や忌引の場合は、欠席でも課題不提出でも不利にならない。

【学生の意見等からの気づき】

○昨年度の授業改善アンケート結果によれば、アクティブ・ラーニングを意識した学生参加型の演習と全員による教育実習報告体験が極めて好評であった。そのため、今年度も学校に怒りそうな事例等に基づく演習を重視した参加型授業に向けて更なる工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

持参すべきものがあれば、事前に指示する。

【その他の重要事項】

- ★本授業の単位を落とした場合は、教員免許状を取得できない。
- ★2時間連続授業が数回あり、それに伴って休講となる日もあるので注意すること。
- ★「3・4年合同」「理数合同」となる回があるので注意すること。
- ★授業計画表は、夏休み中に配布及び掲示する。

【Outline (in English)】

○ Students will confirm whether or not they have acquired the necessary knowledge and skills as a teacher acquired throughout the teaching profession through this class. If necessary, supplement the lack of knowledge and skills, and aim to further improve qualifications.

SEE100LC

地学実験

辻 忠恭

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、小気候観測や天体観測等の作業を通して、体験的に現象を理解すると共に、地学における実験・観測器材の具体的な使用方法と各種データの取り方から、コンピュータを用いた分布図の作成やグラフ化等のデータの処理方法・解析方法や解釈の仕方など、基礎的な技術を習得することを目的とする。

【到達目標】

- ・地学における実験・観測器材の具体的な使用方法を理解し、説明することができる。
- ・実験・観測器材を用いた各種データの取り方を身につけ、データを収集できる。
- ・コンピュータを用いた分布図の作成やグラフ化・データの処理方法・解析方法や解釈の仕方を理解し、分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

関連知識・方法を解説した上で、少人数のグループで行う観測・実験を中心に授業を進める。

各テーマのまとめにおいて、観測・実験結果のレポートを作成。疑問点については適宜回答。リアクションペーパーも実施し、疑問点については、次回の実施日初めに全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	太陽の観察 1	太陽の日周運動の観察
第2回	太陽の観察 2	太陽の日周運動のまとめ
第3回	大気の実験 1	コリオリの実験
第4回	大気の実験 2	海陸風の実験
第5回	大気の実験 3	コリオリ・海陸風の実験のまとめ
第6回	気象観測 1	気象観測の方法
第7回	気象観測 2	気象の野外観測
第8回	気象観測 3	コンピュータによる観測結果のデータ解析
第9回	気象観測 4	気象観測のまとめ
第10回	水文観測 1	採水と水温・透明度の観察方法と野外観測
第11回	水文観測 2	採水と水温・透明度のまとめ
第12回	地質観察 1	地形図とクリノメーターに関する作業
第13回	地質観察 2	地質観察のまとめ
第14回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする】実験結果の考察が、授業内で完了しない場合は、授業外でレポートの作成が必要。

【テキスト（教科書）】

講義の都度、資料を配布する。

【参考書】

左巻健男・市川智史編著「誰にでもできる環境調査マニュアル」東京書籍
日本地学教育学会編著「地学教育基礎講座Ⅳ」ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

全日程出席必須。実験報告書および、実験態度より総合的に評価する。
※実験報告書 50%，平常点（授業参加の姿勢等）50%

【学生の意見等からの気づき】

- ・好評の身近な環境観測での技術の修得については引き続き踏襲する。
- ・レポート作成の時間配分に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用するため、忘れずに持参すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We will conduct experiments, observations and outdoor practical training on the space, the atmosphere, the hydrosphere and the geosphere.

【Learning Objectives】

- ・ We will understand phenomena experientially
- ・ We will learn how to use observation equipment
- ・ We will learn how to analyze data using PC

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on lab reports (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (50%)

